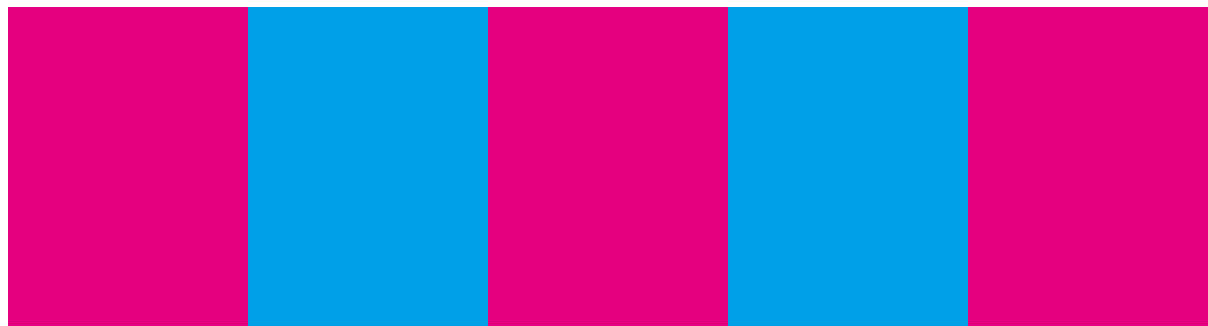
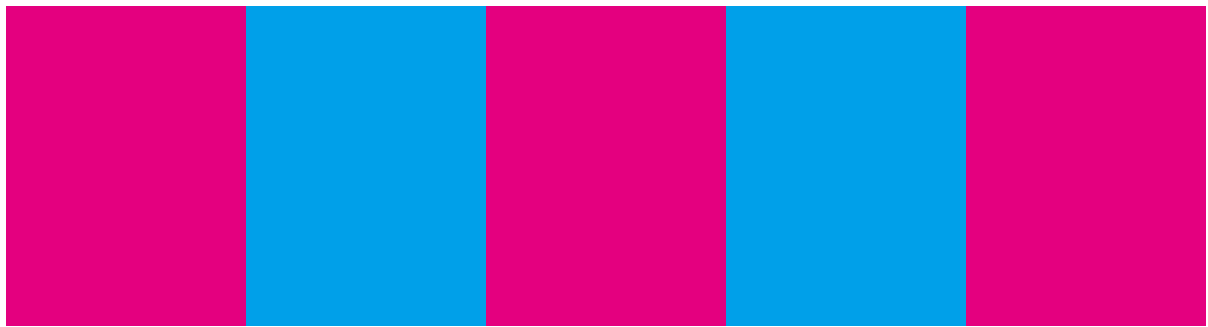
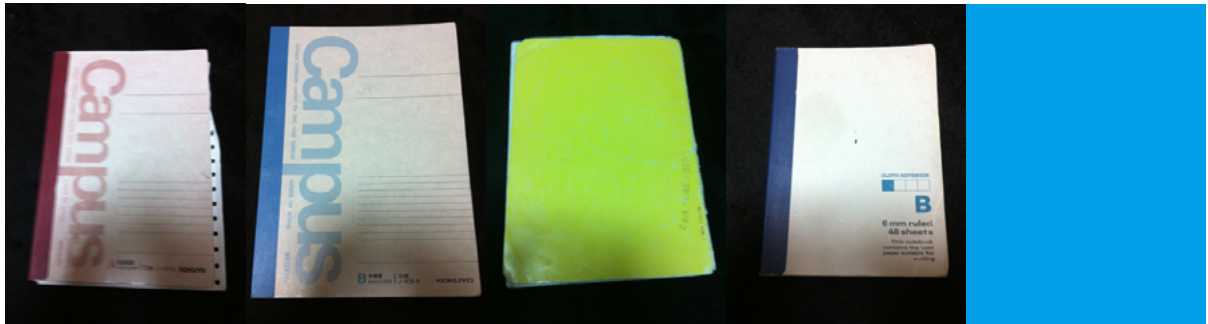


# 馬田三朗ノート



[039]

マンガの道を俺はゆく  
一歩あるけば次のコマ  
起承転結がほしいけど  
ネタがないから ただ絵が書いてある  
女のハダカ、、間抜けな怪獣、、不思議なクルマ

マンガの道を俺はゆく  
八歩あるけば隣の頁  
涙と笑いがほしいけど  
ココロがないから ただシミの模様がある

冬

打ち捨てられたブラウン管を  
指でなぞれば 黒くなった そのペン先を  
突き立てるよ われらの銀幕に  
入り口の汚れた裂け目にくちづけを  
電子メールをキリストへ送る  
それで満足してるのなら もう言うべきことは無い  
ただ手をつないで横に座り  
山を見てる 遠くの山を見てる

冬の真昼の暖かさは  
ヒフには届かないけど 心に届くのさ

打ち捨てられた労働者の  
保険IDカードを大事に握りしめたその拳を  
叩き込むよ 悪党たちの下腹部へ  
吹き出し、したたり落ちる反吐にひざまづけ  
可愛げなアバターをブッダへ送る  
それが恥ずかしくないなら もう皮肉はやめるよ  
今、手をつないで 横にのさばり  
山を見てる 白くなった山を見てる

[041]

ごわごわタオル

がしがしタオル

ぎぎぎタオル

トゲトゲタオル

拭いてくれ すりむけるまで

ピリピリタオル

ビリビリタオル

バチバチタオル

ピカピカタオル

ふいてくれ エレキになるまで

くたくたタオル

ぐにゃぐにゃタオル

べちゃべちゃタオル

知るわけもない

ぼくが正直だと言っても

誰も信じない

ぼくが嘘つきだと言ったら

信じてもらえた

そういうわけで戦略を立てることになる

しかし何の戦いの戦略なのか

知るわけもない

心と見ると体じゅうが小さな引っ掻き傷だらけ

結局のところ戦士であるということ意外に

つながりを持ってないぼくや君たち

ぼくと君が敵なのか または別の第三の敵がいるのか

知るわけもない

ぼくが愛してると言えば

それはどんどん姿を消し

ぼくが愛さないと言ったものは

うじゃうじゃ現れてくる

そんな前提で戦略を立てることになる

しかし何の準備の前提なのか

知るわけもない

知るわけもないこと、知りえないこととか

考えるのがイヤになる時がくるかも

10 分後、友達から遊びに行こうと誘われた

[043]

失ったものを惜しむ詩

悲しい顔を見せよう

悲しさが今さっきここを通り抜けた証拠に

それがわかってもらえないなら 生きているのはもうイヤだ

失ったものを惜しむ詩を肌身離さず

悲しむ君の顔が見たい

悲しさが通り過ぎるのが早過ぎる時など

いつも引き止めていたい ぐずぐずと時間を

失ったものを惜しむ詩

読経のような退屈なものにはしたくないけど

それがわかってもらえないから葬式は続けられる

悲しい顔を見せ合って

悲しさの存在を確かめたなら

世界からひとつのものが消え、ひとつ豊かになる

失ったものを惜しむ詩

iPODでは持ち歩けない詩

[044]

IQ85

バック・スペースで戻ろう 宇宙青春時代  
アンコントロールラブル・ああ、時代的シンセシス  
カロリー摂取インターフェイス生命体オレラ  
ゴクツブシ度を競い合った OZA OZA OZA . . .  
誰もがHEROだったなんてウソ ウソ  
どこにも花粉症がいなかったのがホント ホント  
第3の波でサーフィンして  
ペレストロイカでスキー場を滑りまくったよ  
そんな歴史的残骸バカものどもが  
肩身狭そうにして食堂の片隅で茶をすすってるのが  
今の話  
あわれをもよおすね、話しかけてみると  
ちょっと語彙に知性があるっぽく思わなくもないが  
やっぱ全然ダメなのがサバイバル精神とか  
根性みたいな、そういう核みたいなアレがまるでなし  
今じゃテレビしか楽しみがないと言ってたが  
そのテレビすら実は楽しくないとしたら、いったいどうすりゃ . . .  
小泉にノったり、民主党に期待したり落胆したり  
まあヤツの心の中のことだけど、見た目はただの茶をすするおっさん  
肩を叩きたくなるね、「よくやった . . .ご苦労、行ってよし」  
俺のIQは85しかないけどヤツラよりまし  
俺のIQは85しかないけどヤツラよりしっかり生きてる

[045]

木星こわい

木星こわい

食べられちゃうかもと思うと

木星はデカいからな

なんかそのうちふくらんで

さらにデッカくなりそうな気がするんだ

まず火星がエジキになって

次はいよいよ地球ってなったら

俺パニック

最後のSEXをどこでやろうかとか考えるよ

美しく死にたいなあ

俺、木星の一部になってしまうんだなあ、と思うと

今までよくしてくれた地球に感謝するだろうね

仲悪かったヤツと送別会の時になって

ふいに打ち解けてしまったりするように

ああ、こわい

うむ、でもまだ木星はあのへんにいるな

明日は大丈夫そうだけど

今後はマメにチェックしないと

(まあ、チェックしても変えられない運命だけど)

俺にも予定ってものがあるし

年金払いたくないなあ

木星こわい



[046]

末端と端末

ジーン 末端がヒート・アップ

スーパーボールがバウンドしてる

気が狂ったみたいにバウンドしてる

トレモロがアーム・ダウン

ダム端末がメルト・ダウン

ランナーためてクリーンナップ

末端肥大の指で端末のキーボードを叩く

末端的なJOB端末でSUBMITする

FuFuFuFu MoMoMoMo オペレーション

カウボーイ・ハットに意味はない

[047]

自分がアンドロイドだと知った時  
ちょっとショックだったけど、もういいや  
いつまでもそんな事思ってるより、もっと面白い  
飲んだことないジュースのような愛がきっとある  
乾いた小陰唇の清潔さはスマレのようだし  
人形にしか見えなかった警官が、実は生きていて  
動き出し、僕を・・・逮捕しにくるなんて  
思ってもみなかったから、人生って不思議だよね  
こんな話をしだすとタバコが吸いたくなるけど  
ここではダメなんだ、欲求を10回抑えると  
1回だけ嬉しいことがあって、欲求を100回抑えると  
3%の利子がつく世界だけど、さしあたりこのループで行く？  
でも今夜は君のためにプログラムに1行挿入したい  
保存もしないし、コピーもしないで  
アンドロイドのぼくらにひとときの愛を  
願わくば柔らかくそっと

[048]

PLAYBOYS

遊びなんて知らない

遊ぶってどんな事 それ楽しいの

どうでもいい事にこだわる

どうでもいいトコにこだわる

こだわるこだわるこだわる

遊ばないヤツは馬鹿なのか

遊べないヤツは能無しなのか

何も思いつかない

何も思い浮かばない

従う従う従う 決められたことに

空があっても飛ばない

水があっても泳がない

崖があっても飛び降りない

それでもぼくらは

遊びのチカラで世界を変革せねばならない

いつでもぼくらは

遊べ遊べと強く命令されている

[049]

ローザ・スター

諸君！ROSAの噴水のトコで

浪曲やジャズが鳴り響き

モードを走る俺たちのゼッケン・ナンバー

20・10 足して30 輝きの、煌きの、魁の

イイ気になってちゃ悪いか？

なんて反省のフリ、それもモード

獰猛な獣、だが獣だけが獰猛なのではなく

自動改札機だってじゅうぶん獰猛だ

俺たちを向こう側へ行かせないようにしてる

あらゆる間接照明に夜のとばりを

まるで光の石をかみ砕くようなハンバーガー

地下道に食べ殻、蹴飛ばす俺たち

モ口、星のような、サイコーオシャレなクレイジーレイジー

ビニール傘、ビニール傘、ビニール傘

地方都市だってことを気にしちゃいけない

ナイーブなハートを守るんだ、くさりかたびらで

効果のほどは確かめようがないけど

噴水のたまり水に魚が住んでないことが死ぬほど悲しい

強がっていたって慰めが必要さ

星を名乗るなら、なおさら 虚空を虚仮にずっとけろ

バラのような彼女、それは棘のことでも赤のことでもなく

ローザの噴水広場に遊ぶ、道連れなき幽霊の、

いつまでも深い穴、迷わなきゃやってられない

ケーブルに足をとられて それをダンスと言うなら  
うす暗き酒場でニヤけながら、ピーナッツをもて遊びながら  
あらゆるものの隅々まで憐れんでやれ  
浸み込むベンジン、火をともし口ケット  
どんな言葉も口をつかないが、キャンドルは揺らぐ  
3000円で2時間を過ごし、シャツの第2ボタンの下に  
うっすらとかいた汗よ 液晶モニターの中で場面が変わり  
サーフボードが宇宙から滑り降りてくる  
オンリー・ミー オンリー・ミー 救われるのは  
オンリー・ミー オンリー・ミー 闇夜のタクシー  
走行距離は右目から左目まで で、いくら？  
ケーブルに首を吊るして それを自殺と言うなら  
なんて楽しい死刑執行台、我れ先と連なる群衆の  
吐き出すゴミや、つば、ガム 抜け毛  
荒廢の城を虹色にライトアップして踊れ広場で  
夜空に満月 ブルドーザー サンドイッチ  
花火のように降り注ぐ ワイワイガヤガヤ 回れ  
三角四角五角リングに拍手の渦を 糞袋 血液袋  
ゴミ袋 池袋 悪魔のフクロウ 全てを賭してハイ&ロー  
デジタル・フォト・フレームに収めるべき絵を撒き散らせ  
売りさばけ新聞、からまれ、ケーブルからまれ

[051]

ねじまがったコミュニケーション欲求が  
政治家を早死させたり、肥え太らせたり  
そんなこと気にしないフリでルービックキューブに熱中するフリで  
しっかり計算してる猫かぶり  
打算キッド 打算キッド A・B・C・DASAN・KID！  
要領は得ないが オマエのハートを得（ゲット）

シャワーのノズルの小さな穴たち まるで顔  
組織なんか縁のないフリでスライムいじりに熱中するフリで  
どっしり家族計画 犬ふぐり  
打算KID 打算KID ABCDASAN KID  
年金は出ないが 生涯安康 提灯鯨鯨

そうこう言いながら生きてる  
不平不満で心の80%を埋めながら  
さらに90%をめざしてがんばってる  
世間体なんて小馬鹿にしながら大馬鹿をやってるフリで  
つつましく思い出貯蓄 馬シヨンベン  
打算KID 打算KID  
ABCDEFDCBCDASAN

花見のシーズン

しあわせになりたい でも しあわせとはいったい  
おいしい空気を吸うことか すっきり毒を吐くことか  
俺もなかなか・・・と思うことか 何かをキレイに見ることか  
もうしあわせかもしれない だから しあわせになりたくなる必要  
なんてないのかも なぜふりかえる 今を生きよ  
浮き袋を調節して 海面をめざしたり 海底に沈んだり  
もう何度もくり返して きっと誰かが見たら その行為を  
退屈でキリがなくてパターン化されてもうどうでもよくて  
さっさと結論とゆうか死んでしまえばひとまづ終わりの  
よくある生命的な運動会のリレー走者よガンバレ  
とか思いそうだけど それが愛ならばしょうがない  
よろこんで受け取ろう いさましく放り投げよう  
疲れるまでやって疲れたら眠れる  
誰も起こしてくれるな と願いながら 夢を見る  
重力の蒲団が支えてくれるからだに空想をまとい  
魚でも菌でも自在に変身できる術を  
与え給うた神よ 神田川よ 神流湖よ  
お前の名前 名前のお前 配られた名前カード  
オモテやウラを確かめながら隣に差し出す  
引力のカーテンごしに太陽を眺める乱視に映るのは  
桜色の火花 樹木の下で泥酔しながら  
明日を待つ 二度と来ないかもしれないものを

[053]

そんな顔は見たくない

いったい誰なんだ

そんな笑顔にはヘドが出る

あんまり絶望をばらまくなよ

目と鼻と口 まゆ毛クチビル シワ

おまえの顔はつまり企業

おまえの顔からは資本主義しか感じない

おまえの顔からは苦しみしか感じない

ユーモアのない乞食だよ

すっかりシボんじまった

よくそこまで世界を不幸にできるもんだよ

その顔やめろ

その顔やめろ

空虚 空虚 バカ 典型

若いとか年寄とかって問題でなく

どこまでいっても何もない顔

顔である前に記号

記号のあらわすものは ひどいニヒリズム

退廃、地獄、おそろしき闇

平板な光 深みのない影

物体はここまで腐ることができるのか

物体より もっと悪い物体 それがオマエの顔



[054]

無力の心地よさ

僕はあなたが大好きだけど

それは伝えないんだ

コミュニケーションしたいわけじゃないから

大好きだって気持ちを持ってだけで満足なんだ

あなたには何の影響もない

あなたは讃えられるのに価値する人だけど

それは教えないんだ

あなたが死者で 僕が生者か

あなたが生者で 僕が死者か

泥の城

住めば都 じゃあ都会人ってこと？  
いやいや ここは泥の城だからね  
ヘドロとドジョウの粘液を練り合わせて  
この華麗な建築物を作ったのさ  
とりあえず大聖堂に行ってみなよ  
ハイパー・ギガ・テラ 荘厳・万毛鏡だよ  
なんといっても民族差別がない  
それプラス家族差別もない  
寒くならないから暖房がいらない  
暑くならないからヒゲを生やし放題  
待合室みたいなトコには砂の城のマンガが並んでるし  
建物全部がトイレだからどこでも用が足せる  
何の文句もない  
ところが何の文句もないところが  
やつらの気に入らないところが  
破壊工作を仕掛けてきやがる  
まず、陰口オバサンを忍び込ませて  
住人の仲間割れを狙ってくる  
ぼくらの魂が試されている  
難攻不落の 泥の城  
無敵の練り物 泥の城  
どんな銃弾もどんな爆弾も  
どんな恐怖もどんな不安も  
どんな意地悪もどんな軽蔑も

パチンコ屋の駐車場があまりに広くて  
ゴキブリの僕は途方に暮れて  
輝ける物体を探して南に行けば  
僕と同じように途方に暮れた迷子の少年に会う  
母親といっしょにパチンコしたかったのに  
ゴキブリに出会ってしまうなんて可哀想  
もし僕がゴキブリなどではなくカウンタックだったら  
少年もよろこんだだろうが・・・  
さげすみの心  
みじめな奴がみじめな奴を  
夜が明けても ただそこにはだだっ広い駐車場  
歌を歌おうにも、声が出る気がしない  
せめて語りかけよう  
かっこつけずに 弱っちいところで  
空缶を真ん中らへんに置いて  
思い切り蹴飛ばす心の  
空中分解スレスレのゴキブリのハネよ  
散るにはまだ もう少し  
ここで誰かの車がやってくるのを待つべきか  
阿呆らしい時刻、それは朝7時  
八時になると やや輪郭が出てきて  
九時になると 目の前に仏像が迫る  
そして潰れろ

痛みの原理

なぜ痛いのだ

話せばわかるだろ

そりゃ俺の体によからぬことが起こってることを教えたい  
ってのはわかるが、痛まなくていいだろ べつに痛くする必要  
あるの？こっちが了解できりゃいいんじゃないの  
こっちだってバカじゃないんだ ホント話せばわかるっちゅ～の  
だけどやっぱりアスタは俺に痛いって思わせることを  
全然やめるつもりなさそう。ハァ～ガツカリだよ  
今後もこれからも ずっと 度々 オマエは俺にガツーンと  
チクチクと シクシクと ズキズキと 痛みを与えるんだろ  
交渉の余地もなしか？問答無用ってわけか  
つまり俺は俺が悪い状態で悪い事してて  
このまま行くともっともっとどんどんひどいことになるんだけど  
それに気付かず悪の道をまっしぐらに進む。そんなやつだと  
オマエは俺を決めつけてるんだ  
痛みを与えることが正しい道へ導くための  
正当で唯一の手段だと決めてやがるんだ  
くそっオマエのことなんか無視できりゃいいんだけどな  
でもオマエは無視されると頭に来るっていう  
心の狭いタイプのやつなんだろうな  
悪いことして痛むはずの人間がのほほんと  
どこ吹く風で生きてるのは許せないんだろうな

[058]

鉄のような鉄

人間のような人間

アホらしくて脳味噌でも食うか

HEY 主婦

君が今 手にしてる掃除機を持ってこい

プリーズ！！

HEY 少女

君が今 可憐な唇で吹いているシャボン玉のストローを

僕にちょっと貸してくれないか

HEY 汲み取り屋

バキュームカーの助手席に金髪のジェニーを乗せて

なるべく早く来てくれ たのむ

鳥のような鳥がいるからさ

虫のような虫も調子にのって出てきたし

ちょっと収拾がつかなくなってきたんだ

クソのようなクソにまみれる前に

行為のような行為をして

アホのようなバカチンどもと手を取りあって

世界を世界のようにしなきゃな！

みんなそろってチューチュー吸う

アホらしいバカどもを

素晴らしい世界のような素晴らしい世界だ

[059]

エンド・オブ・ファンタジー

俺が目を開けて眠ってるところを見たんだろ

不吉な兆候

幻想の終焉

マイ・ドリーム・イズ 3冊300円漫画本

ダウン・ダウン・・・

いっそ枕を俺の顔面に

ちっそくさせてくれ

俺の足がバタバタするところも見たいだろ

(もののついでさ)

アンタが俺を見切ったついでに

便器のフタを引っぺがして持ってけよ

冷たい世間からアンタを守ってくれる盾だよ

噂によると 外の世界は銃弾がピュンピュン

流星群みたいだって

なんならもう一晩泊まっていけば？

俺は豚になってるから

気にせずテレビでも見て 腹が減ったら出前とか・・・

教えなかったけど 植木鉢の底に500円玉が

何枚か隠してあるんだ

全財産さ 他の物は何もかも流しちゃった

排水口の穴がデカすぎるんだ

俺は夢を見てる間も、アンタがその穴に落っこちて

どっかに行っちゃうんじゃないかと心配しながら暮らしてた

つまり目を開けてアンタが消えやしないかと

重要な可能性

インポート・ポテンシャル

取り返しに行くんだ

寝坊してしまったけど まだだいじょぶ

歯を磨いて服を着て

何度もそうしてきたように出かけるんだ

玄関で気になる手紙を見つけても

それには構わず行こうじゃないか

もちろんすべてを中止にして

今日のところは部屋でじっとしてるという手もあるが

そういう考えは今は捨てなければいけない

誰がそんな命令をしたのか

俺がそんな命令に従うのかわからない件は・・・

・・・だからこそ そんなの全部まとめて取り返す

とにかく靴をはかなきゃ始まらない

こんな時えてして靴ひもがこんがらがらんじゃないかと

期待してる俺ははっきり卑怯者！恥じろ

決意を固めるために玄関に錠をしろ

ほら、そこにある鍵だ 2つあるうちの小さい方だ

鍵はコンニャクではないから簡単に鍵穴に入るさ

さあその調子だ突っ込んだら右に回せ

こころへんにいる奴等全員でお前を応援してるから

お前ガンバレよ、お前とは俺のことだけど

取り返すべきものがあるんだろ

忘れちゃったか・・・

つかみきれない

ひとつの謎、それは自分

ひとつの謎でありたい

だからあまり考えない

バードウォッチャーのように

バードウォッチャーが鳥に迷惑をかけるのを嫌うように

ありのままを見たい

本当のありのままなんて無いのだろうけど

ありのままが無いということも

ひとつの謎だからオッケー

だがこれを誰かにわかってもらうには

わかってもらうなんて考えるのがおかしいのかもだけど

だからこれはひとつの謎なんだって

誰かに納得してもらえるように

謎は謎だよ、それきりだって

何の他意もありません あなたが見てるものは

私と見てるものと同じ

そんなふうに思ってもらえれば

つまり君が僕を謎と思えば

僕も僕を謎とってる

こずえにとまってる鳥と同じさ



調和馬鹿一代

鼻水こそ垂らしちゃいないが  
ひげ小僧のかさぶたの消えることなく  
白髪にポマードをつけ、クシでなでつけ  
悪党どもの群れなすビルへなぐりこむ  
といった気分でキルケゴールの書をカバンに放り込み  
鼻水は飲みこんで  
混んだ電車の電の字の不釣合いのカッコよさを  
灰色コートの胸元に抱きしめ  
仁丹を2粒 いつになっても慣れない手つきで  
こぼれそうになる恋のメロディーが  
頭痛を惹き起こすとしても これはやめられない  
調和のために生きるのだ  
目を閉じると何か鳥のようなものが  
パタパタと眉間のあたりを飛んでいった  
孤独が最高だって  
絶望が最高だって  
いいじゃないか そんな言い方  
ああ愛しき 雑踏、悪党  
ここで寝転んで痰にまみれてもいいくらいだ  
こんなところに地下街を作ってくれた誰かに  
感謝してる  
神様をおそれながらイタズラしてしまった子供のように  
調和のために歌をわめくのだ

[063]

維持管理保守

ふあああ と 欠伸をしてる奴は

たいがい ワザト

だけど精神的酸欠

どでかい屁で 部屋を吹き飛ばそうよ

カモン カモン

ピチピチの若者を教育するのはヨボヨボのじいさん  
その光景が微笑ましいのは われらが慣れ親しんだ  
トックリセーターから髪の手が出てくるころの  
もうちょっとで全部出そうなとこで引っかかった  
耳がひしゃげて赤くなった彼女へ  
応援歌をはやしたてる男子生徒どもの  
陰毛を拾い集めてカツラを作ってみた記念の  
墓碑銘の予約がいっぱいで代案もないまま  
スクーターに乗ったはいいが、買い食いする小銭すら無い  
ことに気づきガッカリして帰宅  
することがないので寝ると 夢を見る  
ピチピチの若者にかこまれて誇らしげに歌う  
軍歌 おさげにソバカスの子がウツリして  
聴いてるから嬉しくなる だけど夢  
目がさめるとホッペタに何かの跡  
やがてシワとなって定着するところの溝をつたう  
涙なんてありやしない  
だって小生はしあわせ者だから  
ピチピチの若者に訓辞をたれるヨボヨボの  
私、小生は ここに座ってる ポーゼンと  
なすすべもないからって それがどうした  
もう1回夢を見るために また眠るぞ

[065]

(ヒッチハイクは選り好みを言ってもらえない  
考え過ぎのオマエにはちょうどいいかも  
他人の目的を自分の目的に変えるのは  
なかなかおもしろい行為だよ)

ヒッチハイク おまえの冗談  
あまり面白いとは思わないが  
ヒッチハイク おれは乗る  
乗らなきゃどこへも行けないから

旅人よ 乾いた砂ボコリの中  
スニーカーを履きつづし  
光るアスファルトの上でめまいしてる  
切り離しに失敗した魂が陽炎になって  
後をついてくる  
俺を運ぶのは俺か、俺じゃない何かか  
瞬間移動は墮落のはじまり  
でも、どうしようもないよ  
ここでただずっとめまいしていても  
石になるなんて無理だし でも  
ひょっとしたらサボテンにならなれるかも

あてにするぜ

狂おしいほど信じてるよ 正気

正常位に車を停めて

そいつが燃え出す様を思い浮かべた

玉手箱のケムリに包まれた街で

あいつらヒゲをなでている

時折、束ごとごっそり抜けちまうやつらのヒゲ

地面に落ちて、あやしげな植物になる

繁茂する生殖器 カーネルのコードネームは XXXX

おまえらコピーに命をかけてる

紙つまりと鼻づまりの治療薬の完成を夢見てる

列の最後尾で吠えたりヒマを持てあましたりしながら

アテにならない奴をアテにしながら

いまだに自分は正しいと思い続けてることが

恥ずかしくなって 悩むフリをするが

結論は同じ 前からずっと同じ

あてにするぜ

神様はきつという

草むらを棒で掻き回せば出てくる

[067]2009.11.24

冷子と熱子

レイコとアツコは双子座の方からやってきて  
市立中学のとこの角を曲がり コンビニで  
ソフトクリームと肉まんを買った  
どっちがレイコでどっちがアツコか知らない店員でも  
ソフトクリームと肉まんを同じ袋に入れたりしない  
俺は時々、徹底されたサービス精神を目のあたりにすると  
怒りが湧いてくることがある  
サービス精神とは究極的にはその場のぎ主義だから  
ソフトクリームと肉まんを「とりあえず」隔離するのだ  
店員は熱的死亡というものについて考えたことはないのだろうか  
でも俺はやはり店員を讃えるほかはない  
英雄のごとく とりあえず 熱的死亡に反逆してゆく姿  
俺はそれを歌(ドラマ)にしたい  
レイコとアツコという双子の娘を登場させて  
我らが英雄に恋愛の素晴らしさを教える  
時には三角関係に悩めばいいさ  
最後にどちらを選ぶかがドラマのクライマックス  
冷たいものを冷たいままで熱いものは熱いままで  
レイコをレイコのまま愛するか  
アツコをアツコのまま愛するか  
もう、時がない！そのまま死ぬのがサービス精神ってもんだろ

ナマズけもの

(ナマズが猫に似てるんじゃないじゃなくて猫がナマズに似てるんだ！)

なまずけものを飼ってる人が多い

可愛いからであろう

ゴロニヤーンとか言うし、毛が柔らかくてあったかいしね

それはそれでいいけど

俺はずばり、なまずを飼っている

可愛さでは負けるな

穴にもぐってばかりだし、毛もなくて冷たいしね

それはそれでいいけど

たまになまずのことを

キャット・フィッシュなんて言う奴がいるけど

頭おかしいんじゃないかな

まあシャレで言ってるんだらうから

素直に笑っという方がいいんだらうけど

キャットなんてどこの世界の生き物？

なまずけものと呼んどきゃいいじゃん

肌色の物体

肌色の物体と呼ばれるならそれは  
肌ではないのだからけど  
私たちは狂ってる  
色にこだわり過ぎてる  
信号機を見過ぎたからこうなった  
だから紙めればよいのか？と  
だから叩きつければよいのか？と  
話にならない議論が続く  
裁判所の入口のところに置いてある花壇の花が  
申し訳なさそうに赤くなってる  
被告は青シャツを着てるけど  
今まさに肌色の物体に姿を変えるところ  
私たちは眺め過ぎてる  
瞬間にこだわり過ぎてる  
意味を追い過ぎたからこうなった  
それで空想をやめればよいのか？と  
そこで物語をやめればよいのか？と  
せつないぜ！存在  
息を吸うと空気がうますぎる  
冷たい風を受けても 熱い湯気を浴びても  
肌色の物体は肌色であり続ける  
彼を肌色たらしめてる肌色の要素とは  
誰も説明できない  
説明できないことは ただやり過ごすのさ



[070]

LINES

線がぼくらを結ぶ

では線が無ければ結ばれないのか

LINES LINES LINES

超特急でやってきた オマエしか見えない

白線の後で待ちきれない オマエは

俺が降りる前に電車にひかれちまうよ

タバコの吸殻と空缶と吐き出した痰が

LINE になって ぼくらを結ぶよ

線 線 線

夢見心地で汚い大都会で踊るよ

カラフルなコートやバッグも笑ってる

ふられ気分をあの洞穴の向こうへ叫んで捨てる

太陽へは続かない

太陽とは結ばれない LINES LINES LINES で

オマエしか見えない

オマエにしか結ばれない

網を掬ってるのは誰か

無線には線が無いと言ってだましてるのは誰だ

超特急がトンネルの中で埋まってしまっても

オマエしか見えない 闇の中 LINES LINES . . .

LINES LINES . . .

NAMAZU WAS DEAD

お別れは突然ナマズが死んだあの夜  
理由がわからない 理由を教えて  
でも理由があったかどうかもわからないのさ  
死ぬ二日前にワカサギを二匹食べて  
腹がパンパンにふくらんでいるのは見たけど  
俺は今、目の前のラーメンを食べ切るのに苦心してる  
水槽の中、水草にひっかかって  
からだはタテで頭は水面を向いて  
黒いボディは黄色になってしまって 死んでた  
死んだワカサギを食べたことで  
死が伝染してしまったのだろうか  
でも俺はいつも死んでる物を食べてるけどまだ死んでない  
ラーメンには死んだ肉が浮かんでいるけど  
この死んだ肉は、お祓いがしてあるから大丈夫なのだろうか  
あのワカサギは、お祓いがまだ済んでなかったのかも  
そう考えるとあちこちに危険な死んだ物があるな  
それがお祓いが済んでるかなんて見ただけじゃわからないし  
まったく対策を打てないところが怖いね  
ここまで生きてこれたって、なんて運が良いんだ  
でも幸運だって限度があるだろう  
ドラは4枚までしか引けないのと同じように  
話は変わるけどナマズがあので待っていてくれて  
俺があので行った時、再会できるかもあやしいね  
努力次第だ頑張れって、アンタは言うけど、それは多分・・・

アナーキスト書道家の一日

アナーキストらしく見えないこともない  
太い筆に墨汁つけて半紙に書いた「破」の字  
臆病な羊にしては躍動感のある筆はこびりだけど  
署名を書くところでハタと筆が止まる  
1カ月前と3年前と16年前のことをいっぺんに思い出し  
気分がすっかり変わってしまった  
この沈みゆく感じを止めるなんてできない  
ブンチンと自分で立場を交換したいような気分  
というか、すでに自分はブンチンに成り変わってた  
こんなアナーキストの末路を誰が予言した？  
羽をもがれたゴキブリのように小さい  
水槽から飛び出して床でのたうちまわり飼主に気付いてもらう  
のを待ってる工ビのように  
絶望が五臓六腑に侵み渡ってる  
そもそも半紙に書かれた「破」の字とは、なんなんだ  
これが書くということなのか、なんてむなしい  
なんと気が遠くなることよ、もうしゃべれない  
書けない、言葉がステルス迷彩して消えた  
大好きな「破」の字  
大好きな「破」の字 何度もつぶやき さまよう  
眩暈クラクラ、朦朧としてきた頃  
気分が立ち直ってきた。さて、やるか

破っ血

赤血球にファシズムがあるとしたら  
白血球が武力介入して  
青血球が政権をとる  
だけどそれは黄血球の傀儡政権で  
トンカチでしたたか叩き潰した親指の爪の下に  
黒い血豆ができたのも 昨日のことのよう  
その血豆の指で緑のペンキ塗りの3時休み  
茶菓子の袋を開けながらTVを見れば  
いつにも増してひとりぼっちの気分な  
俺は17歳の青年 未来はたっぷりあるのに  
悪い未来ってことだけ はっきり言われてる  
どんなに本を読んでも 何もわからない  
腹が減って、眠くなるだけ 時間なんてものは  
あってもしょうがないよ カネと同じくらいに  
それより血を流してみたい  
血を失ってみたい  
こんなズタ袋に血を溜めて歩っていても  
土囊に成れるのがせいっぱい  
盛大に破けて 溜まったものを大地に  
たっぷり浸み込ませたほうが 美しいよ  
こんな気持ちの仲間と党を組めたら  
血の絆でつながって シアワセな未来を  
ぶっこわしてやりたい

スパナ人

整備してる人がいる

スパナ人、スパナを手に持ち、スパナの絵のTシャツを着て

スパナでオナニーして、スパナで歯を磨く

地上がおおむね上手く行くように

日夜、整備している 休憩なんてない

本当はもうまくやれば、休憩したり、ヒマな時間も

とれるんだけど

スパナしか使わないから どうしても時間がかかる

そのことにイライラしてもしょうがない

スパナ人とはそういうもの

だからキミはパソコンの画像編集ソフトで

しこしこスパナの絵のアイコンを作り続けるがいい

あらゆる文書にそれを貼り付けろ

そしてやがて気付く、ありとあらゆる

何もかもが整備中だってことを

そして整備はずっと終わらないことを

HELLO ! スパナ こんにちはスパナ

GOOD NIGHT ! スパナ おやすみスパナ

電気のヒモの先っちょに結んであるのも もちろんスパナ

そのスパナをハ工取り紙にしてる地方もある

股間にスパナをぶら下げてるヤクザもいる

50本のスパナを出産したすごい婦人もいる

スパナを1本見たら100本あると思っていい

ああ～整備が終わらね～

[075]2009.09.14

今の俺まるで青空が歩ってるみたいに  
からっぽの心がスニーカーをはいて  
踏みしめてゆく芝生を・・・キミの窓の下あたりまで  
朝陽が雑多な物たちの高さを越えて  
照らし始めてる 軒下や 前髪の下あたり  
キョロキョロ目が動いて 朝露を飲んでるカタツムリの  
らせん模様に吸い込まれていったら  
夢からさめて 目覚ましアラームが鳴ってた  
仕事に行く支度をして玄関を出て  
カタツムリの姿を探したけどいなかった  
だけど俺 まるで青空が歩ってるみたいに  
予定ぎっちりの心が革靴をはいて  
コンビニエンスストアでタバコを買い  
青空に少しだけ白い雲が浮かんでくるところを  
ながめているんだ

風は冷たいけど太陽はここにある  
キミが近くに来れば気流を感じるだろうか  
つばめは高く登っていく  
電線にからまって飛べなくならないように祈るばかり  
だから、もう、うらやましがったりはしない  
今の俺まるで青空が歩ってるみたいで

[076]

隠れたメッセージを受け取った「死ね」  
何度も何度も休むことなく送られてくる  
ひとつひとつは弱い信号だけど  
クドクドクドクド果てしなくしつこく送られてくる  
「お前さえ生きていなければ地球はもっと涼しいのにな・・・」  
聞かなかったことにしたい  
こんな音楽は聴きたくない  
そんな文学は読みたくない

死ね死ね死ね死ね  
何度も何度も もーいや、まだ言うの  
まるで耳にこびりついたミーミーナンバー  
コバエが脳に入りこんじまった  
俺もお前もジグモみたいにつながった鼻水の  
噴水が温暖化してるから  
もっともっと死ぬべきだ

風よあなたに見えているか  
淀んだ空気の中で鮎のように口をパクパクさせて  
つり革に両手を合わせ祈るみたいなかっこうで  
呪いの言葉をつぶやいてる男  
そのワイシャツの背中にどでかい汗の跡  
はずかしげもなくさらしていることをはずかしがってもはじまらない  
要するに辿り着けるということは常に正しい  
偉大過ぎてケチのつけようがないこの進行  
ディステネーション イズ ディステニィー  
理想は直前に目をさますこと  
寝てる間 何が起きたって 何も無かったと同じ  
夢を見てる間に辿り着いたこの駅  
汚れなき魂なんてありやしない  
汚れなき電車がただ突き進むだけ  
風景を叩き、はじき飛ばし、ペンペン草の1億倍の音量で  
愛という名の泥を掻き回す神様のふんどしの下を通過  
遅れながら慌ててその後に続く風よ、あなたは  
完全な敗北者よ それでも目を開けて追い続けよ  
偉大なるビートをたどり続けよ



[078]2008.10.07

しゃべることがない

しゃべることがない ナイナイナイのさ  
しゃべることがない ちっともないのさ  
言いたいことは特にない 聞きたいことも特にない  
何も問題ない ただしゃべることがない  
蝶でも飛んでくればなあ  
黒いのも黄色いのも  
そうすりゃ風雲急を告げて  
先ず、お前が、そして俺が  
先ず、お前から そして俺も・・・

そこにイベント屋がやってきた  
イベントにはテントが必要ということで  
パンフレットを取り出し  
いろんなテントの目録を見せてくる  
テントに入れるロゴは考えましたか？と聞かれたから  
蝶のマークが思い浮かんだけど  
蝶のマークのことはしゃべらずに  
天気のことをしゃべった  
イベント屋はテントの本来の目的は雨風しのぎ  
だということを忘れロゴの話をした事を侘びた  
そして沈黙が訪れ  
イベント屋も帰り、またこうして  
俺とお前はしゃべらずに ずっと一緒にいる

蝉のスピード

つくつくおーしが おーしつくつくと鳴く昼下がり  
秋が近づくテンポも落ちてゆく  
もう諦めたか？生殖することを・・・と休憩中の男がつぶやく  
ところがセミの方は諦めるもクソも・・・  
ただ単純にテンポが落ちていた  
1分間に何回とか、そういう事は考えていない  
体力と気力に忠実におーしつくつくと申っただけ  
それをテンポが落ちたとか、生きる気力が無いとか  
言われるのは心外ですよ、心なんか無いけど  
・・・とセミに言われた気がした休憩中の男の  
タバコが尽きて昼下がりの木の下プレハブ小屋から出ていった

あふれんばかりの河

茶色い水、下痢か生理か

とにかく吐き出している

露骨過ぎるとメディアは嫌がっているが

止めようがないのが 俺達のあふれんばかりの

濁流の奔流のなんかすごい勢いの

メートルの上がった 堤防などものともせず

権力者の怖がるような 警察が逃げ出すような

地図の形が変わるような、なんか、なんか

ポテンシャル！それは河

そうだよ、低きに流れるって癖はあるけれども

あふれちまえば上も下もない

安全地帯、高みの見物など許されない

地面も山もビルも人間も溶ける

無理矢理はがされる 足元から 下痢か生理か

とにかく、とにかく・・・

そんな夢を見ながら彼女は寝小便をした

[081]

1982年の金属バット

1982年の金属バット

輝く銀色 サイコーの感触の黒テープがグリップに巻いてある

それを握って 振り回したい 2008年の俺

歴史は修正された

不都合のせいで今日のデートはオジャンになったが

怒りを消す方法は残しといたほうがいい

だから1982年の金属バットを今ここに！

幻影と戦う2008年の勇者ども 集へ！

集わずとも 各自 その部屋で振り回せ（ちょっと片付けてから）

これは野球ではない

人生も野球ではない

服装のせいで今日の面接はパパになったが

面接官を殺さずに済む方法は残しといたほうが良い

これだけは言うておく

思ったほど世の中はひどくない

だまされた分や美化された分を差し引いても

まだ良いトコが残ってる

1982年の金属バット握りしめて

強く強く振れ振れ振れ幻幻幻幻

カワイサの秘密

漫画チックな脳を持つ俺の  
眺める曲線方程式に燃えた  
といっても頭が燃えてチンパンカンパンってこと  
秘密を暴こうにも！いったいどこが秘密？  
可愛いの反対はグロテスクだから  
せめてグロテスクの方でも見つかるといいのだが  
依然 謎のまま事態は進行し 今に到る  
それで明日も・・・もう漫画は大して読んでないのに  
もう全部全員カワイイってことにしちゃってもいいのかもだけど  
まあもうちょっと努力して  
努力してないことを見極める

ついに気付いてしまった俺は  
くだらない事をしてでも幸福になれることを  
たとえばテレビゲーム  
1歩歩けば1歩しあわせ だけど  
おれは俺が感じることを、客観というものはない  
1歩歩けば1歩ずれる ガラリと変わる  
幸福は止まっていない どうせ動く 永久運動  
だから 俺たち 結局 生きてるだけで しあわせなんだ  
大発見しちゃった  
生きてりゃいいってことじゃん  
ゲームの目標は無尽蔵、どこに着いてもまた始まる  
そりゃまあ究極の目標は死ぬところなんだろうけど  
最後の段階で成果を問われることなどないし  
成果を誇りたい奴は誇っていいけど  
それは幸福とは関係ないもんね  
やることはいくらでもある  
やらないこともいくらでもある  
意味を求めることの意味を求めないような  
どうでも幸福

[084]2007.11.19 帰宅途中の車の中で歌った歌

アスファルトを・・・

アスファルトをはがしてみれば

アイツの骨があるんだよ

その骨バラバラだったけど（どうしてか）

だんだん集まり寄りそって（くっついた）

すっと立ったよ土の上（こんにちは）久しぶりの太陽～

コンピューターを

コンピューターをバラしてみたら

いなくなってた猫が入ってた

その猫バカ猫だったから（どうしても）

追っかけちゃうのさ綿ボコリ（どこまでも）

からだを丸めて箱の中（きゅうくつだ）久しぶりの埋葬～

心の叫び 等

北側のビルのエレベータは人間用ではなくて  
車を載せるゴンドラみたいだった  
南側からやってきたにもかかわらず  
南側のエレベータに乗り損ねた僕は  
北側の専用の昇降機の鉄板の上に  
駆けこんだ 上に昇ってしまえば  
北側から南側に渡れると思ってたし・・・  
鉄板に乗ったら中年のおじさんがいた  
乗り込んだらすぐ鉄板が上に動き始めた  
言い忘れてたけどこの昇降機みたいなのは  
むき出しの装置で 鉄板のへりには何の柵もなく  
外の景色もまる見えで 楽しい気分を考えれば  
遊園地のアトラクションのようでもある  
だけどその時の僕は乗り物を楽しむというより  
怖かった。でも南側にもどるのも面倒だし  
ちょっと我慢してしっとしてれば上に着けるのだし  
瞬間的に判断して鉄板にのりこんでいた  
鉄板のへりから2~3mのところに掴まることのできる  
鉄の棒が立っていたので僕はすぐにしがみつこうと思った  
中年のおじさんがすでにしっかりしがみついていたが  
普段は他人となるべく接触したくない僕も  
おじさんの脇へもぐりこんで棒を掴んだ  
しがみつけるほどの棒と場所の配置でなかったので  
とりあえず棒の掴めた部分を僕は強く握りしめた  
そしてとにかく・・・  
鉄板は動き始めた 僕は外を見るのがこわいので  
すぐに目を閉じた。たしか 22 階くらいだったから  
そんなに長くかからず上に着くだろうと思った  
とりあえずあまり考えず、想像などは封じ込めるように念じて  
動く装置の中ほどで棒を握りしめる  
無心でいようと思うのだが、なかなかどうして



時間が長く感じる 感じるだけでなく実際に時間がかかっているのか、  
そのへんはよくわからない  
とにかくだまって目を閉じて棒を握りしめるのだが  
この鉄板は本当に上へ向かっているのだろうか  
なんか横につっ走っているような風を感じる  
握っている棒を放すと吹き飛ばされてしまいそうな感じだ  
とても心配でイヤな感じがするが目を開けて確かめるのは  
もっとこわい。だからただもう棒を絶対放さないように、  
早くどっかに着いてほしいと切に願いながら  
ゴーツという音の中をただ耐えていた  
しかしあまりにも長い・・・まだなのか？ 僕はおじさんが  
いたことを思い出し、話しかけてみようかと考えてみた  
でもそう言ってる間に着くかもしれないし、話しかけて  
この状況にグチをこぼしあたりすることが、この状態を  
もっと長くしてしまうような気もしたりして、結局そのまま  
もう着くはず、もう終わるはず と心で叫ぶだけだった

[086]

立体駐車場に車を入れる時  
車内に置いたビデオハンディカムで  
車外の様子が映るようにして録画状態にして  
車を入庫したらどうなるだろうか？  
たぶん暗いから赤外線モードにしないと何も映らない  
かもだけど、もし何か映ったら怖いな  
そんな実験をしてみたらどうか

[089]

資本の欲動 ギイギイギイ (ギイギイギイ)

おいらも負けじと ギイギイギイ (ギイギイギイ) [5 連符]

ヒットパレード ポプカット ブロンド娘

マウスの動きを猫が狙ってるけど

イベントはお前だけ

クリスマスもバレンタインも

大仏の体内で過ごすとしたら

[090]

偏執狂

偏ってる？まあいいじゃないか

そんなふうに見えることもあるよ

君が保険会社の人じゃないかぎりは

そんなの放っとくんだろ

関わりあえる風景はもう残り少ない

たっぷりあった残念も すっかり減ってきた

そして無念が残るってヘリクツですかね

パラパラパラパラ

暗カン！

[091]

ドメスティックバイオレンスで

わたしはあざだらけ

助けはこないの

放射能の国の

街から出られずに

家から出られずに

部屋から出られずに

自分から出れない

叫んでみようかな

吐き気のただ中で

クリームを塗り過ぎてはみ出したような

しあわせのテーブル

(クリームを塗り過ぎて

はみ出したように

しあわせは逃げてゆく)

スピーカー大きく スピーカー大きく

わたしの願いの大きさくらいに (同じ大きさに)

[092]2011.11.25

お勝手にしやがれ

お勝手にしやがれ！ちわ三河屋  
お勝手にしやがれ！チワワ3匹  
コショーが振っても振っても出てこない  
だけどクシャミだけは出た どうゆうこと？  
私のような専業主婦のウワサをする人なんて  
あの人しかいない 20年前に別れたカレシ  
私が今どこに住んでいるか知らないから  
実家のポストに直接手紙を入れてくるキモいストーカー  
三河屋よりも過去の人  
性感帯が開発される前の原始人  
私の人生に何の影響も与えなかった通りすがりの人  
今、思い出したことすら奇跡のような人  
コショーを買ってこなければ  
ついでに白髪染めも  
お勝手にいるから勝手に考える  
チワワ3匹はいらない 1匹でいいのに  
いつも数が増えることを喜ぶ人っているね  
三河屋とは3回でよかった。4回目には飽きた  
それなのに 12回やってしまった  
そのたびにラーメンを食べさせたから、今コショーがなくなった  
イヤな因果を感じる またあの人を私を・・・  
私をネタにして何か言ってる気がするの  
あの人のごとはどうでもいいけど、ひとつだけ気になることがあって  
あの方は私の。その、性器の、まだ・・・手入れがじゅうぶんでない頃  
あの方と別れた後、気付いた事で  
その、性器の、びらびらの裏側に、カスみたいのが  
いつも溜まったままだったことを知ってしまった・・・唯一の  
ああ恥ずかしい、お勝手にしやがってるのに  
今なにしやがってるんだ あの悪魔  
そうやって私をずっとつけまわしてニヤニヤしてる  
私なんか、アタのこと屁とも思っていないからね！  
私は私のお勝手に勝手にやってる  
可愛いチワワ3匹と三河屋の小宇宙  
あの方の入りこむ余地なんて どこにもないの！

冷えた情熱はクルミみたいに萎んだ心臓のペンダントの  
蚤の市での叩き売りの口上の優雅さに劣等感を煽られ  
両手で顔を隠しながら駆け出す神社の境内の敷石の  
ちょっとしたデコボコに足を取られ転んだ先の犬糞を  
食ったような気分なんだなこれが  
簡単に言うと悲しい だけど言うほど簡単ではないのが・・・  
原始人が始めて火を起こす時のような奇蹟を  
待ちわびるほどに人生は長くないってところ  
晴雨晴晴晴雨晴とオマエのような岩石は  
倒れたモアイのようなわかれうたで誰かの名を呼び続ける  
ローリング・ストーンにもなれやしない  
苔も生えない  
ただ無数のピッケルを肌に突き刺されたまま  
ヒビ割れのヒビをじわじわ拵げてゆくだけ  
あまりにも野蛮ではないか？  
そんな想念を振り払わんとソフトウェアを開発するため  
パソコン一式を購うのだ しかし CPU は石  
石は熱くなりたいが とことん冷やされ  
どうにもならず扇風機への呪詛をつのらせ  
クシャミ鼻水鼻づまりの2つの穴蔵に  
産廃を投棄投棄投棄 そして汚染が顔面を青黒く変色させ  
ブロンズ像になれたらいいな  
美術の教科書にモデルとして掲載されるといいな  
だが、そんなふうにはならず  
冷えた指で冷えたタバコを持ち冷えた口にあてがい  
ライターの火をつける さあ今こそ そのライターの火で  
自分自身を燃やしてしまうがいい

[094]

ベルトをゆるめた程度の解放

束の間を使って 20km 先のアダルトショップまでひた走り

腹が減ったのかハートが減ったのかわからんけどメシを食い

眠って起きたらベルトがきつくなっていたから

またゆるめた 胴体がふくらんだのか ベルトが縮んだのか

かくして今夜ふたたび解放を待ちわびる

1週間7日制度について時々文句を言いながら

ベルトの皮の上を行ったりきたりしてるバックルベリーフィンと名乗る

ソファーに座る男が

ブルー・スウェードのような肌なでて  
丸く切り取られた乳房を  
グレープ・フルーツみたいにしぼってみたらどうか  
マンモグラフィ技師の黒ブチ眼鏡が  
ひっそり汗でくもり始めてることを見逃すな  
いろいろひっくるめてそれらをビジネス・チャンスと申すか  
笑止！いやしかし笑ってみようとする僕にしても  
皮細工ひとつ完成できやしない  
あきらめて階段を降りる 電灯を消して  
それならば足元を見なくてすむ  
それから背後にいるヤツも  
無視を決め込んでスベラースに親指のせて  
トントントン降りてゆく どこまで続く下り坂  
ビルの中層にいるのか下層にいるのか 知らぬ間にもう地下なのか  
判断の決めてなどないから楽しい  
ブルースウェードをマントのようにかぶり  
アイオン界から来たコウモリさながら  
闇雲に降りてしまったのさ その拳句が  
錯乱したブルース歌い コード進行がおかしい  
目指すものも戻るものもない  
さまよい感だけで 迷い感だけで 良い感だけで 遺憾だけで  
指が5本あることが実感できない  
本当に5本なのか、見ただけでわかればよいのだが・・・  
見たものが実感につながらないとしたら  
けっこう切ないぜ  
恋人の愛を疑う者のようにのどが渴き  
水道の蛇口のそばを離れられない  
こうして運命論者ができあがる その隣でお前の  
プラモデルもできあがる 台所ではカレーができあがる  
そんな世界についていけないってゴキブリも逃げ出す家に  
本当の狂った男がじっとソファーに座り  
おまえを見つめている



[096]

スマートフォンを買ったけど  
スマートフォンなんていない  
買い物は楽しいけど  
買うべき物なんてない

遊んで暮らしたかった  
そんなぼくらの夢はかなった

スマートフォンが便利でも  
スマートフォンなんていない  
スマートフォンが不便でも  
スマートフォンが欲しい

夢を見て暮らしたかった  
そんなぼくらは消費者になった

ゲーム・メタゲーム・メタメタゲーム  
一生計算しないで済むように計算(プログラム)した  
ここは海  
昨日は陸  
はじめから夢はかなってるのに  
なぜそれ以上の夢を買わせようとするのだろう  
もったいぶった認証を無事通り抜けた時  
誰かが幸せになったのごとき幻

[097]2011.07.14

落ち目な男

オイッチニーとかけ声叫ぶも  
ノドがいがらじみて口内炎がズキンとして  
頭の中が皮フ病みたいになって  
ブツブツブツブツ・・・まだらまだら・・・  
もうダメかもしんない 落ち目だよ  
どこまで落ちる いっそどこまでもと言いたいが  
悪あがきをするのが落ち目な男たる所以

ブルースをがなってみるも  
ブルースをないがしろにしてきた罰のように  
セブンスは飽和しペンタニックは鉄条網のごとく  
この身をしばりつけ 小便ばかりやたらとしたくなり  
近寄ってくる者は蚊か蜂か蟻ばかり

白鮮菌の湧いた水が目に入り  
あわてて洗面台で顔を洗う時ちらりと鏡に映った顔よ  
100 の言葉よりこの俺は落ち目  
なにもうまくゆかない  
クセになりそな悪循環  
図に書いて分析しても多分ダメだろう  
コンサルティング事務所にたずねてもダメだろう  
やらぬうちにダメと決めつけるからダメと言う人もいるが  
圧倒的落ち目の風をこんだけ受けりゃ  
あきらめてしまう 人は弱いものだから・・・なんてね  
それでもオイッチニーとかわめいて  
頭痛さめやらぬ悪寒とむし暑さの中で  
生きるということを なんとかやり過ごす！  
生きるということを ぬらぬらやり過ごす！  
なにが起きてもしるもんか  
たっぷり後悔する覚悟をきめろ

[098]

俺は自由になりたい キミもそうだろ

俺は理由が欲しい キミもそうだろ

俺はなんにもしたくない キミもそうだろ

俺は疲れるほど動きたい キミもそうだろ

俺は先頭を走りたい キミもそうだろ

俺は真似をして様子をみたい キミもそうだろ

俺は一途になりたい キミもそうだろ

俺は浮気をしたい キミもそうだろ

俺は危険をおかしたい キミもそうだろ

俺は安全なトコへ逃げたい キミもそうだろ

キミは自由になりたい そりゃもっともだシャツのボタン

キミは理由が欲しい 唐辛子はカラダに良いんだってな

キミは何もしたくない 気持ちはわかるが地球儀見ろよ

キミは疲れるほど動きたい 貯金をはたいたウォーターベッドが破れたんだって

すべての人が芸術家になったら  
なんかもずいことでもあるのか  
芸術が得意でない人が権力闘争に敗れて  
ウラミツラミを募らせ  
相変わらず不幸な階級が残ってしまうのだろうか

でも芸術が得意でない人の芸術ってなんだろう  
得意ってのは相対的なものかもしれんし  
芸術は評価されない芸術をふくむとして  
芸術してる時、人はしあわせだと思っただが

芸術という言葉が悪いのだろうか  
芸術という言葉には評価と権力がつきまとう  
そいつらを取り払った  
生きるよろこび、エラン・ヴィタル 生命の躍動  
花を咲かせようって話

咲いた花がキレイとか、誰かを幸せにするとか  
そんな役に立つ、立たないの話はやめよう  
でも今は  
にぶく押し殺した色でウジウジとうらみがましく  
ひん曲がって 既製の香料をふりかけた花が多いのかも  
べつに無理してそんな花にすることないのに  
ああ、もしかしたら、咲かせろ咲かせろと周りがうるさいから  
腹いせに悪びれた花に見せかけたくなるのかも  
だからぼくは誓って  
評価をやめよう  
ぼくも評価を求めない きみも評価を求めるな  
すべての人が芸術家になったって  
なんも まずいことはない

あるできごとがあつて  
それを思い出せないとしたら  
そのできごととは存在したのだろうか

もしも存在しないものに  
天プラの衣みたいのをつけて  
揚げて、また衣をつけて、揚げて・・・

イヴはリンゴをかじってる  
俺は天プラをかじってる

知恵を求めて歩いた  
3丁目までしか行けずに  
缶ジュースだけ買って帰った

記憶ちがいだった  
恋人に言われて気付く  
このノートに書いてあることが証明だって

住宅ローンの利子がひどくて  
ジャングルなのに分譲していたから  
約束してしまった  
そのできごととは日時計の広場で  
誓いあった男女の愛の  
非存在の・・・

まともなブルース

まともなおとなになれなかった  
思えば子供時代もまともでなかったからか？  
途中で1回でもまともになったっけ？  
いつかはまともになると思ってたのは気休め  
今日からまともになると言ったら大ウソ  
だんだんまともになると信じてたら大バカ  
何も変わらね～何も変わらね～  
変わらないことにガッカリする気持ちだけは衰えた  
なんとかしようとする気持ちだけは退いた  
まともじゃないことが平常なもんだから  
まともじゃないことをまともだと言い出す始末  
オ～イまともはどこにある まともはいったいどこにある  
売ってるものなら買いたいところだ  
でも本物のまともを見たことないから  
二セ物のまともを売りつけられても喜んで買ってしまおうかも  
そのまともを床の間に置くのかパソコンにインストールするのか  
知らないが 使いこなせないことが目に見えてるけど  
誰も助けてくれない  
心からまともになろうと思っても  
まともの見本があちこちにあって  
見よう見まねでやってみたとしても  
不毛で不毛で不毛で不毛でね  
まともでない奴がまともを目指すことが狂ってる  
という簡単な結論をくつがえすすべもなし  
本当はまともでないことを気に病む必要などないのだが  
なぜかまともでない奴ほどまともを気にして  
まともの存在がうっとおしくて仕方ないのに  
まとものことを頭から追い払えず  
ムンムンとして せめてまともなおいのシャツに着替えて  
まともな政党に投票しようとして意気込んで支度するも  
玄関でつまづき それを理由にすべてを忘れたふりして  
また一から、はじめから、まともとは何かを考える姿勢を  
煮えた海老の真っ赤なはじらいのイメージで  
丸まって縮こんで 完全に負けるのである

拡散する光

でもどこから来た光なのかは  
かすかにわかるんだ

乱反射する光

でも光を生んだ存在が誰なのかは  
かすかにわかるんだ

急いではいけない

霧が晴れるまで  
答えを待とうよ

錯綜する音

でもどこから来る音なのかは  
かすかにわかるんだ

攪拌される音

でも音を生んだ存在が誰なのかは  
かすかにわかるんだ

決めつけてはいけない

埃が地面に落ち着くまで  
答えを待とうよ

木の葉舞う風

本当はどこから来た風か  
わからないかもしれない  
首筋をはらう風  
本当はどこにも誰もいないのかもしれない

答えを出そうよ

その答えが光となり音となる

## PUNKS

あんまり馬鹿にすると しっぺ返しがくると言うが  
それが怖くてパンクが出来るか  
中学校の校門で演説してても(アジテートしても)  
マトモな女生徒は寄ってこないが  
隣で駄菓子を売ってる浮浪者は  
あんがいモテてる 腹が立ったから  
おどかしてやったぜ バカ生徒よろこび  
教師はこそこそ便所で時間つぶし  
積極性をウリにしているのは生徒会長だけじゃないぜ  
やり手のマネージャー 売春斡旋 東京行くため  
ところが方向オンチなもんで  
オレみたいなの下層階級に道を聞くハメになる  
運命は冷酷 今じゃバンドのボーカル  
同じ年の中学生にメガホン向けてキワドイ言葉を  
延々とがなるしかない  
時々テレビ局のやつらがウロウロしてるが  
ハンバーガーしかおごってくれない  
バカに食わすメシはそれだと思ってるみたいだが  
ハッキリやつらは時代おくれ  
明日大地震がきても俺はやつらを助けない  
イモの遺伝子は抹殺するべきだからな  
味噌ラーメンのモヤシくらいしか役に立たない  
そのラーメンを作ってるのが田園地帯の妖精のごときババア  
コショウを山ほどかけて俺は食ってるが  
クシャミが出そうで出ないような欲求不満である日夢精したんだ  
その時夢に出てきたのがそのババアだってことは  
さっきメガホンで告白済みさ  
ウケてんだかウケてないんだかわからないけど  
どんな時でも踊ってくれる俺の弟は大事にしたい  
できれば大学まで行かせたいから稼ぎはやり手マネージャーに  
頑張ってもらおう さて今日も馬鹿にしてやった  
しっぺ返しはまだ来ない



( ログを漁ってオマエの何を知るといのだ  
タンポンの残骸を漁って何を得るといのだ )

何をすりゃいいの判断できない  
オレにや自由が多すぎる  
誰かオイラに指示してくれよ  
( ブレイク ) . . . 最低のことでもかまわない . . .

最低のことならできるのさ  
最低のことほどガンバっちゃう  
最低のことだけまっしぐら

目をそむけたくなる 鼻をつまみたくなる  
いっそリアルにひたってやろうぜ  
肩までどっぷりタトゥーのTシャツ湯けむり吸って  
( ブレイク ) ブラブラゆれてる金玉みたいに

最低のことから始めるか  
最低のことすら全力投球  
最低のことしかやれないぞ

生きてるだけ ただ生きてるだけのそんなやつ  
ところがでっかい肉体が居座って  
ザブトンごとずるずる引きずって委員会  
やたらと市民が協力しやがる  
ようやく退場した頃にアホくさい大雨が降ってきて  
どのみち全員水死体  
ログを漁りにエンジニアが来た

最低のものだけ残ってる  
最低のヤツだけ生き残り  
最低の地面でたき火をしていた

兵士でなければ人間ではない  
という時代を過ごすキミの  
台所にはヤカンがひとつ  
少量の水が残っているが  
それが何になるであろう  
おそらくキミはもうこのアパートには帰らない  
ペットを飼っていなかったのがさいわいではあるが  
明日の今頃は軍艦に乗って  
どこかの海峡を渡ってるところで  
鯨でも見ながらオカリナを吹いている  
まあそれはナマコなんだが・・・  
手がピチョピチョになって我にかえり  
上官を甲板から叩き落して知らんぷり  
誰にもバレなかった上、自分でもその事忘れてしまい  
のほほんと南西諸島に上陸して  
翌日には結婚までやってのける  
タフでなければ魚類ではない  
という時代を過ごすブルーギルの  
エラが紫→赤と変わるにつれ  
息苦しさが漂ってはくるものの  
冷徹なまなざしでTV画面の水槽を  
ながめるオレも兵士にすぎない  
と隣の女が言ってるバーカウンターの  
ニワトリペンギン同盟の養子「翔」君は  
柿ピーの柿だけ食べて上機嫌だから  
こんな夜があるなら戦場も悪くないなんて  
思うつぼだぜ  
ヤシの木の浜へ行こうよ  
満天の星空に浮かぼう  
眠くなるまで

人間社会のおかしいところを列挙する本

- ・ 眠い時に眠れないで 起きたい時に起きられない
- ・ 完全には伝わらないと知りながら 言葉で伝えなきゃならない
- ・ 自分の肉体以外の物を所有し、他人がそれを使うことを制限しようとする
- ・ いつも競争させられる
- ・ 親類を優先する

ニューエイジ・デイドリーム

反資本主義 ところが広告の権化  
広告の権化 ところが反資本主義  
オレの名前は丹生鋭次  
名前空間に登録済みさ

{このページを訪れた方で  
これから新しい学校を建てようとしている方が  
いらしゃいましたら連絡ください  
オレが校歌を作ります  
オレに校歌を作らせてください  
}

スパイダーソリティアがやりたくてたまらない  
スパイダーソリティアに選ばれし者、それがオレ  
厳しい練習を経て 相思相愛が生まれたのさ  
参考にしてくれ 参考にどうぞ 参考しろ！

おそろべきコピーライターの才能が  
ここで浪費されている  
放っとけば無能なキャッチフレーズが  
世間を席卷してしまうから  
石ケンを見直し、癒しの香りのするやつを  
風呂場に置けば幸せになれる  
ナメクジともども良好な関係を築き上げよう  
シュプレーを吹きかけて殺したりしないように  
坊主は祈るよ教会でアツラーの方角に向かって

{このページを訪れた方で  
国家プロジェクトに関わる官僚の方や  
大企業の役員で社会貢献に興味のある方  
オレに陽の目を見させてください  
}

サイボーグ

神様ぼくは何も知らぬサイボーグ  
せつなをかみしめて生きるサイボーグ

目的地なんてないのさ  
太陽の子供でもないのさ

反射するコーティングの壁には  
ぼくの顔 謎の顔  
アイスリンク舞う妖精たちよ  
フェードイン・フェードアウト

さよなら重層低音よサイボーグ

基盤をとりかえてみたくて サイボーグ・サイボーグ  
( 街へ行く レジを待つ )  
少しは学ぶことができる 愉快だね  
( 無害だよ )  
空の青さを伝えるには スカイブルー・スカイブルー  
名前を呼ぶだけのドラマの 俳優やヒロインも

仲良く生きるしかないよサイボーグ  
だけどナワバリを主張するサイボーグ

エーテルのにおいの枕を  
少しずらして夢の中

部分と全体について

論じ合ってる太郎とサチ子

部分の総和が全体になるはずがない

と力説してるのが太郎で

サチ子は太郎の言ってる意味が

あまりわからなかったが同意をすることにした

とりあえず

全体から部分の総和を引き算して残るものが

きっと在って、その在るってことを言いたいのだろうか

などと考えた

そうしてる間にも太郎は亢奮が進むばかりで

次々と新たなテーゼを投げってくるものだから

サチ子は口をはさむ間も見付からず

いまや喫茶店の壁に張り付いたようになって

ちびちびとアイ스티ーで口を潤していた

太郎はわたしたちが部分に過ぎない

ということに憤ってるのかもしれない。。と

サチ子は直観した

こういう男をなぐさめる方法は知っている

サチ子は行動しなければならぬ時が来たと思った

サチ子は背中にあるブラジャーのホックをこっそり外し

セーターの中でもぞもぞと肩ひもをまわりこませ

さりげなくそれを背中から引き抜いた

データベース化、座標化、アドレス化

われわれはなんだ

なんでもない

この文字とそう変わらないものだ

デジタル化、変換可能、プロトコルで話す

われわれはなんだ

チャットで君の裸を見ている

ようは視線の強さで

勝負にケリをつけようとしてる

にらめっこ国際選手権を争ってる

隠りたいよ

隠してくれ

隠してることを隠さないでくれることを隠せよ

チャットでダルマを見ている

七転び八起きと書いて七転八倒と読めば'

混乱を呼び起こせると思い上がったのも束の間

われわれわれはなんだ

壊すこともできない

建てることもできない

われわれをわれわれと認めさせるような

われわれのわれわれらしさが割れ割れ

土器の破片ほどの威厳もなく

湯呑み茶碗のシブほどの騒りもなく

分子レベルの空虚を歌にして

人気を取ろうともがいている芸能者

なんだなんだなんだ

なんだって流れてくるぞ

すごい流れだ、津波にのっかって

ドドドドドドドドドド・・・われわれは・・・ドドド

なんだ・・・ドドド・・・か・・・ドドド

・・・わか・・・ら・・・ドドド・・・

ドドド・・・ない・・・ドドドド

[111]

半月のように 半分明るくて 半分暗いやつが好きだ  
おかげで真ん中に線ができる  
それを邪魔に思う場合もあるけど  
こうなったら その線の上を歩いてみた方がよい  
よたよたと  
まったく決まらないけど  
むしろ頑なに決めないことを決めたような  
そんなやつのうしろ姿に  
犬が吠えている様は なかなかよい  
犬の近親者といえる警察官なども  
こぞって集まり やつの行方を気にもんでいて  
空を見れば半月  
こういうのは なかなかよい  
半月の光のもとで人間がちょっとばかり  
可憐な存在に思えてくる  
そんなリクツなのですね

だから永遠に引き延ばそうとした  
ずっとずっと感じていたくて  
だけどそれはそうはならない  
そんなことはそんなふうにはできない  
解決が待っている  
ああそれはなんて・・・つまらない  
別ればかりがあり過ぎる

しかしそもそも別れを  
というか別れ目を  
仮想したのは僕だった  
半月、陰と陽の境界  
涙でぼやかして



[112]

確信のないまま 踏み出す一歩も  
一歩には違いない  
それに続くべき二歩目は当然  
一歩目の影響を受ける  
そんな調子で三歩四歩  
確信のないまま歩き出した者よ  
歩き続けてるといふことしか確信がないのに  
君はゆくのだ  
老人たちよ

死を確信して 踏み出す一歩も  
死を忘れて 踏み出す一歩も  
一歩には違いない  
それに続くべき二歩目が  
永遠に踏み出せない時が来る  
死を確信して歩き出した者よ  
死ぬといふことしか確信がないのに  
君はゆくのだ  
若者たちよ

進んでるつもり？  
進めているつもりか？

[113]

悲しみが住処になってしまったら  
郵便受けもなくなり  
停電してても気付かない

悲しみが住処になってしまったら  
屋根は大きな穴  
水道は水たまり

悲しみが住処になってしまったら  
幽霊ばかり訪ねてきて  
迷惑メールだけでハードディスクが埋まる

でも、いいんだ  
僕はここに住む

悲しみが住処になってしまったら  
テレビは砂漠だけ  
ガスは変なところに溜まる  
下駄箱はムカデになり  
階段を登っても2階に着かない

[114]2011.04.11

皆滅

とんだ食わせものは みたらし団子を持って  
ガレキをかきわけ新しく作られた道の真ん中で  
串をもて遊ぶので周辺のオッサンどもが怒りの目でにらみつける  
しかし襲いかかる勇氣はない。串で突き刺されるのが怖いから  
結局団子は行きずりの娼婦の腹の中に納まるのだが  
飢えた野獣の眼鏡をかけた飽食知事が「けしからん」  
と、古えの歴史残骸小説の無鉄砲ヒーロー一気取りで  
コメントした瞬間、視聴率がはね上がり、  
額縁の中の白黒肖像の中のカイゼルひげもはね上がり  
列島はあたかも一匹のごんぎつねのように悲哀をまといながら  
ただただ震動してる・ふるえている 皆、滅びを待っている  
おれは鳥になりたい  
鳥は人間になりたいだろうか  
むしろ海になりたいのか  
海は血液になりたいだろうか  
心臓や脳や指先と、あちこち巡り歩くのは疲れないだろうか  
男の背中も女の下腹部も防波堤にはなりはしない  
すべからく降参する運命だと君は言うのだ  
おれはむしろ本当に降参してみたい  
降参すれば幸せになれるのじゃないかと  
結婚相談所の親身な係員に何度もたずねた  
きっと辟易してただろうけど、悩みに凝り固まった頭は  
独特の強さを持つのだ みたらし団子の串のように  
ほら落ちてるよ、道の真ん中、新しい道の  
方向性を持った串だよ とんがった方がどちらを向いてる？  
まるで占いだ だけど信じるのだ 俺の頭はBSE  
プリオンプリオン怒ってる顔もカワユイなんて言うな！  
とんだ食わせものだよ！団子をよこせ  
さもなきや奪うぞ、おまえの串など怖くない  
卑怯なオッサンどもとは違う 若い俺たち  
細胞分裂ばりばりしてるんだよ 未来があるのさ  
滅びたいやつが滅びればいい  
でも俺たちは違うんだ

見えようが 見えまいが  
掃除用具は唸ってる  
洗剤とうがい薬を頭からかぶり  
ケタケタ笑う脳疾患の女  
その横でギターを弾き小銭をめぐんでもらう乞食はイケメンで  
見えないものを見せようと  
高音を張りあげ、ハーモニーを工夫しているが  
政治には影響を与えられず  
モヤモヤと近づかかげろう達に  
のみこまれて遠景に去ってゆく  
そこに置き忘れていかれたカポタスト  
ゴムがのびきって使いものにならないことを  
後で知って苦笑い  
だが苦笑いをする権利さえなかったとしたら  
そいつはちょっとヤバい立場になる  
立場というのは見えない床であり見えないポートボールの台であり  
見えない綱渡りのロープであり 見えない・・・  
だが見えていたとしても  
ケタケタ笑って脳に釘を打ち込むしかない  
頭皮を雑巾でゴシゴシこすって  
光り輝くはずが逆に雑巾の汚れが移って黒ずみ  
負けるもんかと、より強力な化学洗剤を  
投入する 拡散する ホースが踊り狂い  
あたり一面めくるめく乱反射  
見えないものが目つぶしをしてくる  
見えてたものが見えなかったもののにのみこまれ  
すっかり逆転が終わった頃  
掃除用具の中の勇敢な戦士のひとり  
モップをふんずけて柄が起き上がり悪に天罰をくだす

[116]2011.3.23

こんな世の中にしたのは誰だ！とか考えて  
怒ってられるうちが花で  
やがて自分を責め始める  
おまえはじゅうぶんオトナだから  
今までたくさんのチャンスがあったはずだ  
だけど何もしなかった  
こんな世の中にハッキリ加担していた  
そこのとこに気付いてしまって  
冷汗かいて蒼ざめて  
恋人になぐさめてもらおうと会いに行くが  
話がはずまなくなってる  
自分を責めてる人間は語れることが極めて少なくなってしまう  
どうしてそんなふうになってしまうのだろう  
悪意はなかったはずなのに  
だまされていたのか だましたやつが悪いのか  
だまさせたやつが悪いのか  
だましましだましの連鎖の中で  
もっとも気に入らないのが自分をだましていたこと  
いや待て、だましたことに、だまされざるをえないことに  
理由があるはず  
ある時、だまされている方が楽だと思いはじめた  
そのきっかけがあるはずなんだ  
そもそも自分をだますという行為  
本来的な意味のだます、あざむく、虚偽を教え込む  
そんなことを自分が自分に施すのは不可能だ  
自分はウソの裏舞台を知っているはずだから  
でもそれをわざと見ないようにする片側の自分を作りあげる  
なんて不毛な製造  
真実を知る片側が真実を知りたくない片側に  
甘い考えを吹き込む  
それを調和と呼ぶならば調和はいらない  
ぶちこわせ  
もうチャンスを逃すな  
かろうじてまだ命があるうちに

[117]2011.3.22

7分間

考えてみてもたかが知れてる

そうじゃない？

だったら言おう

空虚が生み出す言葉ってすごい

言葉がすごい

だって何も露してない

なんなんだよこれ

トンカチがコンニャクだったら的な

微笑の可能性の中心だね

でも、わかりあえた

それだけじゃなくて  
コレだけでもない  
寒いときにストーブが欲しいだけじゃなくて  
腹が減った時に御飯が食べたいだけじゃなくて  
キミの背後を見るといい  
そいつは笑ってる？怒ってる？  
半分信用するということが  
とてもむずかしい世の中  
それだけだと言い  
コレだけだと決めつける  
船のまわりは海  
海に落ちれば溺れるが  
船の中でも溺れてしまうことがある  
ぱんち  
ひとつぶの水滴  
全世界を映し出してる  
その水滴を飲む  
コンティニューイング  
それだけじゃなくて  
これからどうする  
汚れきった その汚れが  
手編みのセーターの セーターの毛糸の  
ほどくがごとく  
どこまでも猫の前を通過して  
神社、教会の飾り立てた門をくぐり  
伸びてゆけ  
絡まってゆけ  
祈るとは そゆことだ  
そのためだけでなく  
コレのためだけでなく

応答ねがいます・・・

われわれは神を発見しました

アー・アー きこえますか？

ついに神を発見しました。どうぞ

え〜と、どうですか？

だから神を、神を見つけたのです

頭の中にいます

場所は特定できませんが、確実にいます

ただし弱いです、あくまでも現実に対してですが

・・・そうですね、いや、しかし

それはそうですけど、やはりこれは画期的ですよ

個人的には良いニュースだと思いますが・・・

えっ？なぜ・・・だって

今までになかったことですよ、そ、そうです

たしかに、、ええ、そりゃ無力ですよ

だからなんなんですか？いいじゃないですか！

はあ？・・・どうして、そんな

わからないんですか？くり返しますが、これは大発見です

歴史的とも言えるでしょう。これを境に人類は大きく・・・

(ここで話し相手にどなられてビクツとなる)

・・・そうですか、そういう見方もあるんですね

気付きませんでした。

あ、いえ、こちらこそ、大人げなかったです。すいません

・・・わかりました。それではこの話はなかったことに・・・

(受話器を置いて)

我々は神を発見したが

あまりに無力だった

とノートに書く



[120]2011.3.17

現実というチャンネル

現実チャンネルでやってる番組は現実だった  
圧迫と窒息と寒さと飢えの 2400 時間テレビ  
気がつくと他のチャンネルは全部無くなってた  
あんなにたくさんあったのに  
現実チャンネルの受信機は現実の野原に置かれ  
放射線と強風で倒れそうだ  
画面の中に俺がいた  
現実チャンネルを共有することは  
甘美でもあり、耐え難きことでもあり  
No! と言えずにズルズルと  
でもズルズル行くことがしあわせなのかと  
すべてが麻痺してる  
俺の頭も現実も同じようにマヒしてる  
液晶モニターがパタパタ倒れる  
ドミノのようにどこまでも 何 10km も続く  
地蔵にもたれかかりタバコをふかして  
粹がってる男もいた。そいつのサングラスに涙  
たぶんグシャグシャになってる  
でもイメージ(映像)は元気な頃の姿だから  
幻だって判るさ 俺はその透けた姿の向こう側を  
見ている  
TVセットの舞台袖を探すが  
そんなものはみつからない  
果てしなく遠いところにもない  
このチャンネルは誰が放送してるのか  
いったい何者が、これを見せるのか  
最悪なのは これしか見るものがない  
いや、もしかしたらサイコーなのか

えんざいのテーマ

インスタント・キリスト・ラーメン・ヘアスタイル・X OR +  
スニーカーを貸してくれ 逃走用の軽いやつ  
でもって獄中を走りまわるぜ  
ゴキブリだってほしい、オイラと競争するんだから  
いっしょに法律も勉強したいしね  
結局、アタマだろ？誰かのドタマによってここにブチ込まれた  
だからオイラもアタマによって神聖なイジメを理解するのさ  
でも・・・実際問題・・・ハラへった  
インスタント・キリスト・ラーメンを食うことはできるのか  
勉強ばかりでアタマがクタクタ  
夜食だよ、たのむ、ちょっと台所で作ってきてくれよ  
ねむれない！あんなに走っても 汗も出ないし  
ぜんぜんサワヤカになれない ドロドロだよ  
こんなのちっともキリストらしくない、オイラの知る限りキリストってのは・・・  
肉体だろ？憎たらしい肉体によって ここにブチ込まれた  
それでオイラは汚れた愛のメシを食わされるんだ

石を投げろ . . . . .

石を投げろ オイラに向けて

画家Zのうた

警察なんてこわくない  
ためしに制服着てごらんよ  
しなびたペニスがぶ～らぶら  
天ソバ食べて大ゲップ  
美人が交番やってきて  
大事な物が盗まれたとわめいてる  
それは俺の絵  
それが俺の絵

年端もいかない少年の  
腹を切り裂き臓物の  
マフラー巻いてる貴婦人よ  
オイラにお金をめぐるんでください  
あんたのダンナが政治家でも  
医者でも暗殺者でもかまわない  
仲良くやろうぜ 楽しくやろうぜ  
俺のアトリエで 俺の便所で

警察なんてこわくない  
俺は自由な運命なのさ  
あんたは蝟の足を1本つかんで  
得意になっちゃいるが  
平和な街は真っ暗な墨の中さ ケムいケムい！

(黄色いノート)

[001]06.12.5

残り香

「君が生きなければ いつまでも生きてよい」  
とある者が言った・・・・・・・・・・  
・・・・・・・・かつて地球があって 君は人間としていた  
見渡せなかった世界を今見せてあげる  
この香りは粒子じゃないからひとつの場所に存在できる  
邪魔はいない 好きにしろ さて理由をきこうか  
君が見たい理由を・・・・・・・・  
時間は気にしないでよいよ、時間は無いからね  
愛しているのか？恥ずかしがらずに いつまでも生きていいよ  
実感がないのかな・・まあ、いいんだ いつ感じてても  
あれは終わった はるか過去みたいな今さっき  
君の趣味はわからない、でもゆっくり話せる  
なんなら玄関を通過してこのソファーまで歩いてきてもよい  
君はきっと見るだろうから  
見ずにはいられないし、生き続けることを多分選ぶよ  
僕にとっても・・・・・・・・残り香は・・・・・・・・うん、悪くない  
僕は君の専用なんだ、言い忘れてたけど  
まさか僕を消さないよな？  
いつまでも一緒に生きようぜ！

[002]

痛みを取り除け

痛みのポリウムをツマミのように回せばな

それならいいんだがな

まったく痛みにあふれてる

どーかしてくれ 気の毒 気の毒 気の毒

痛みさえなきや誰も悲しまなねーよ

死のうが生きようが！

全部どーでもよくなる なんか千切れても回り続けて

もうメチャクチャ、ホームランが 500m 飛んだり

原爆打ちまくり・・・やがて打ち手もいなくなるが

とらえず手頃

スマートでナイーブ

究極の安全 これぞ皆が待ち望んだ

ARE YOU FUCK?

ちびちびちび 切ねえ！せつないっ

結局ディストーション

[003]06.12.12

寒い部屋と缶コーヒー

&煙草。詩人は死に、生活者も死に  
彼らは白髪を得るために 構内を歩いた さまよった  
建造物の中が透き通って見える 視点などどうでもいい！  
在らざるを得ないから在った ミニチュアの兵士  
戦車の脇で腕がもげ・・・ちぢんでゆく人間の観に耐えかね  
筆をとった。寒い部屋だけど まだ手は動くのさ  
これは果てしない。まるで明日終わるようだけど  
もっと虚しく もっと虚しく 674の罨  
こんなに体温があって 今も燃えてるのに 何故寒い？  
ここに居られるのもあとわずか、まるで永遠の宇宙のようだけど  
誰かが隣にいる、彼を怖れずにタバコをふかすのさ  
言葉にならない会話をしよう 文法がわからないから  
名詞を並べるだけの気分だから  
食べるように考えてクソになる 背も伸びず 曲がりも治らず  
これでもけっこう前向きなんだぜ

[004]

めざせ例外

生まれてきたからには目指せ例外

ハズレってカッコイイ

ちょっと面白くしようぜ

鼻の穴ならべて馬鹿共が注目してる

さあここでハズせ 水洗便所の流すヒモが切れるぜ

さあ海だ 海へ行こう 海水浴とは違う道で

なんせ混雑はほっとこう 知らない

知らない例外の外は知らない

勉強不要 学習無能 キレイな雪ダルマみたいに

転がっていけたらいいな

Z'bout

44 マグナムという銃の実物を見たことはないが  
44 が背番号の野球選手は見たことがある  
ちなみにそいつはホームランを打った  
2点入って試合に勝利し 記録は今でも振り返れるが  
そのボールはどこへ行ったのだろうか  
あの弾丸はどこへ行ったのだろうか  
誰かの心臓を貫いて どこへ着地したのだろうか  
それともまだ飛び続けているのだろうか  
地表に沿って地球を周り続けているのだろうか  
だろうか？とは言ったものの、これは疑問でも質問でもなく  
絶望のテーマソング  
敬老精神にあふれた俳句同好会の青年運営者の  
自腹で購入した中古パソコンのセットアップもつつがなく  
あり余ったハードディスクに五七五七七のテキストを入力しながら  
あたかも寿命を無期限延長したような錯覚を求めて  
絶望のオーケストラをこね上げる  
44人編成の重奏低音パートが地響きをたて  
世界一斉同時多発盆踊りのタイコのリズムをGMTに合わせて  
60%でシャッフルする  
Z'bout.....Z'bout....



- ① 何が言いたいかわかれ  
判ったら 判ったような顔を見せろ  
すると俺は判ってくれて嬉しいという顔をするので  
その顔を見て判れ
- ② 俺は疑ってる  
お前も疑ってる  
それでうまく行ってるからいいんだ
- ③ よりよい未来なんていない  
よりよい過去の方が欲しい
- ④ 欲しいものを得て 欲しいものがなくなることが一番こわい
- ⑤ 恐ろしさと面倒くささの違いがわからない
- ⑥ 1回やったことを もう一度やると思うと吐き気がする  
でも心配するな、同じことは2度とできない
- ⑦ さよならを言い続けても口が疲れるだけだ  
だからあいさつは省略しよう

(紙切れ)

[004-3]

ドメスティック・バーイオレンスで

ゆーうこ は あ〜ざだらけ

た〜すけに〜こないの

ほうしゃのうの くにの

ま〜ちから どれなくて

い〜えから どれなくて

へ〜やから どれなくて

じぶんから できない

スピーカー でっかく

グローバ〜ル・バーイオレンスで〜

[005]

ぶーたのー ぶたいろのかわ

すーじー すーじを書くのはすーじー

すーじー 読めればいいのさと乱暴に

豚の豚色の皮

雨が降る日は小屋の中

だから雨にさわったことがない

豚の豚色の皮

だんだん汚れるけど洗えない

スージー 数字を読むのはスージー

スージー 読めなくなりそうになるとまた書くスージー

豚の豚色の皮

生まれたてとは違う豚色の皮

いろいろあったけど最終的 豚色の皮

[006]

We are the beautiful

過去を美化し

現在を美化し

わざとらしいぜ

なぜ あるがままにいられないんだろう

突然壁にあらわれたゴキブリまで神話になっちまう

入り口も無いのに、出口も無いのに

存在が失禁してる

オムツが吸い取る因果は無限 無尽

と思わば やってられん 委員会 侵略を美化し

それが歌のパワー だから歌わない

なにひとつ続いちやいないと思えないかな？

美しくあれ！と号令がかかって

化け物があらわれた

涙が無色透明だからって

動機が純粹って思うのは間違い

原罪が失禁してる

君の愛が吸い取る小便は無限と思って

歩けば歌もはずむ

だから歌う WE ARE THE

WE ARE THE 気休めばかりのこの街の

長久命の超バカ

[007]

蠅がウンコの上に還って来た

「やっぱりここが一番落ち着く」と・・・

(小さいノート)

[008]

硝子戸の外

あなたはぬくもりだ  
通りがかりみたいに僕は  
夕食時の下町で蒲焼を覗きこむ  
このにおいのように出会いも薄れ、消えゆく  
ストーブは燃え尽きた  
誰もいなくなったあの部屋で ぽつねんと冷えていく  
僕はその前に硝子戸の外へ  
そこらじゅうの人と同じように寂しさに耐えきれない  
結局どちらも寒いのだが・・・  
硝子戸の中だろうと外だろうと  
通りがかりみたいな顔でなければ  
歩くこともできない  
なぜ辿り着くことをイヤがるのか  
なぜ目的を持って歩いてはいけないのか  
知らないけど そうゆうことなのだ  
あなたはぬくもりだ  
硝子戸の外からならそう見える

[009]

ピグミーじゅうたん

10 mになれるか 10cm になれるかだったら

10cm に決まってる

だってこの絨毯は凄いぜ

たちまち密林 いざ探検

手足を取られて傷だらけになりながら

聖なるほころを見つけに行くのさ

蚤が弾けて顔を直撃だ 痛い

でもだからこそ燃えてくる

戦士の本能がよみがえってくる

君も遊ばないか？ピグミーじゅうたん

ピグミーじゅうたんで男のゲーム

大砲に負けるな！全身でぶっかれ

逃げも隠れもするけど最後は勝つ

地震に負けるな！つかめるものにしがみつけ

姑息な手段も使うが、最後にははらます

ピグミーじゅうたんに男の旗を

立てろ！立てろ！

グレーの服の男が通せんぼしている  
通せんぼ？なつかしい、そして古い  
回り込めば簡単に避けられるのに  
なぜそいつは腕をザリガ二のように広げてる？  
道幅いっぱいのもりなんだろうが  
そもそも道なんてないって事がわかってない  
多分センスが悪いのだろう  
からかってみようか？「よォカカシ君、社会の窓が開いてるぜ」  
だけどそいつはニコリともしないで  
相変わらずザリガ二状態だ  
「よォカカシ君、社会の窓から記録的な長さのちぢれ毛が出てるぜ」  
だけどそいつは股ぐらに目をやることもなく、こっちをにらんでる  
仕方なく俺はそいつの広げきった腕の先端の横を通過して  
向こう側へ行くことにした  
ちょうど通り抜けたかと思った瞬間、後頭部に衝撃が走った  
俺はぶっ倒れて頭をおさえようとする「いたたた・・・」  
ふり返って見上げると、ザリガ二案山子野郎がコマみたいに回転していた  
(番場蛭の大回転魔球のモーションさながらに)  
「なんじゃこりゃ！」  
回転はどんどん速くなり、うなりを上げ  
細かいところなどとらえられない速さで  
グレーの影がビュンビュン音を立てるだけのようなものになってしまった  
こいつは回転しながらどんな顔の表情でいるんだ？  
と、よぎったが、もはや確かめられる速さではない  
俺はズキズキする頭にもかかわらず叫んだ  
「よォカカシ君！ただのデクの棒かと思ったけど、ずいぶん派手だな！  
俺は死ぬかと思ったよ。でも俺は通り抜けてこっち側にいる、さらばだ、元気でな！」  
当然返事はないが、俺は立ち去った  
ちょっと行ってから振り返って見たら、まだ回転していた  
もっと離れてからもう一度見たら いなくなってた



まごころ無き交際

際どいところを歩いている

人生の綱渡りと言うが 俺は右から落ちるのか  
左から落ちるのか・・・地面に当たった時には、そんなこと  
もう関係ないけれども、こうゆう屁のような問題提起で  
時間を稼ぐのも、ひとつのテである  
さて、我々は交際を為すのであるが  
それは屁の二オイを嗅ぎ合うってことで  
喫茶店でひとつのストローでソーダを飲んだり  
アルタ前で待ち合わせしても、そこには屁が充満するだけで  
まごころの問題は翌月に繰り越すのである  
そして次の取り立てに備えて  
また別の屁を充填するのである、その観点で言うなら  
我々はガス・ライターである ZIPPO ではない  
交際には煙草も必須である。煙というものは  
屁となんら変わりがないようだが、厳密に言うと  
精霊のカテゴリーが違うのである、もっと言うとタバコの銘柄  
によっても精霊が違う、もっと言うと精霊なんてデッチ上げである  
デッチ上げたものは屁だから、これで問題解決である  
破綻した理論を救うのも屁なのである  
いつかまごころ有る交際ができるのだろうか

磁力博士の息子

脳みそは豆腐みたいだって言うけれど  
豆腐は脳みそみたいなのだろうか  
筑波山の山頂の研究所へ手紙を書こう  
博士の息子が郵便受け開けて  
その手紙をすっぽかすだろうけど・・・だろうけど

男と女は磁石みたいに引き合うって言うけど  
磁石は男と女みたいに引き合うのだろうか  
つくば山の山頂の研究所に手紙を書こう  
博士の息子が郵便受け開けて  
その手紙で焚火する だろうけど、だろうけど

博士は何も知らないで実験実験くり返す  
タバコをふかしてコンピューターの前で居眠り  
ヒバリやカケスが研究所の窓をコツコツ叩く  
のどかな春の浄化槽に一家の生活排水が溜まる  
博士の息子はミミズを掘り出したり  
右足と左足で違う靴をはいたり  
捨てられたテレビを叩き割って磁石を取り出したり  
イヤなことを寄せ付けない磁力に守られているかのようだ

膾と腸

呪われたゼロ記号、つまりここにはゴキブリがない  
君は完璧さ！二重橋前の警備員程度には  
内壁と外壁のバイセクシャル 新宿の路地裏で  
革命ビラを配っているが 思想のありすぎるホスト共の  
反発を招いてる よく見ると横丁は膾だった  
クラインのつぼ構造で笑いが絶えない娼婦たちが見てるのは街頭テレビ  
映し出されてるのは監視カメラの中の自分たちの姿  
フィードバックが発振して、けたたましい紫のサウンドに包まれる  
膾は爆発しそうだ でも結局爆発はしない ディメンジョンが変わったから  
逝くと言って逝かないのと同じ事。ホストは可哀相な男を袋叩きにしてる  
バイセクシャルの愛した壁はいまやゴキブリでびっちり埋め尽くされてる  
呪いを解いたはずなのに、この有様だ！とわめいて  
携帯電話を取り出しメールを打ち始めた  
「0,0,0,0...」と打ち込むたびにゴキブリが消える  
逃れようのないチューブ 超越論的管がうごめく  
膾も腸も膾も腸も膾も腸も・・・  
ありえない革命を夢見てギターをかきならせ  
ゴキブリを減らすヤツとゴキブリを増やすヤツの永遠の弁証法  
それがグルーヴ！

[014]

悲しみは嫌いじゃない

少し開いた窓から風が入り込むような

この世界において俺なんてスキだらけの存在

ほとんどカバーできない広過ぎる外野にぼつり

足の速さでどうにかできるものじゃない

悲しみはどうしようもない

どうしようもないことは嫌いじゃない

どうしようもないことは悲しい

悲しみは嫌いじゃない

終わりなき秋

もう素肌をさらせなくなって

踏み潰された栗

[015]

肉痛

わかってくれ！心の痛み という慣用句を  
振り回したナタの切れ味で  
いま死体が四分五裂したトコ  
もはや焼肉とそれを食べる口が共犯関係を  
楽しんでると解説するような白々しさ  
痛い、痛いと言っておきながら実際さあ  
歌ってるみたいだよ  
思わずハネちまった！死体なのに  
ドラムスティックを突き刺すと汁が出る  
すべての爆弾に反対 すべての銃刀に反対  
すべてのニッパーが怖い  
俺とお前がぶつかった時  
どっちの壁が痛がるのだろう

[016]

意識過剰なんだ

壁も柱も灰皿も飲みかけのジュースも

どれもが存在を主張し過ぎてる

だからって主張をやめろってわけじゃないが

目をつむってもまぶたの裏が主張を始める

どいつもこいつもうるさい

だからって静かにしろってわけじゃないが

楽し過ぎるんだ

消しゴムも天井も積乱雲もゴミ箱も

あちこちが騒ぎたてている

だからって落ち着けてってわけじゃないが

大げさじゃなく言うけど

頭が無なんだ

在るものはまわりだけ

世界の中心で頭が無なんだ

[017]

ジャパン

米を食おうと言ったが反対された  
1970年代に作られた台所にて  
夫婦は争いを避ける  
ムカデとゴキブリが合体して  
一匹の新種の虫が生まれたみたいに  
見たこともないような素敵な社会が  
あらわれたらいいなあ、じゃあパン！  
だがしかしたいがい  
殺虫剤を吹っかけられる  
まるで語り尽くされた怪談のごとく  
俺のジャパンは今日も弱かった

[018]

50 日間聴き続けたけど  
憶えられなかった  
歌のような現実が暗い太陽になって  
真っ暗なのにまぶしい  
目が開けられないから聴き取るしかない  
そんな 50 日間も過ぎ去り  
まだ生きているのが不思議だ  
それはいい事でも悪いことでもないが  
今すぐオマエの体が欲しい  
半導体の上に寝そべって  
冷たいレールに耳をあて遠くの汽車の  
演算と葛藤を浸み込ませたい  
すっかり忘れたはずの 50 日間が  
歓喜とともに甦ってくることに期待して  
反する  
いつも反するための期待に恋しちゃった  
もうオマエを離しやしない  
何処へ行こうとも俺がバラまいた CD が  
うず高く積みあがる、そびえ立つ  
建立された夢の国 飽きることなく  
50 日間はまだ続く



GLOBAL BLOODY VALENTINE

歪んだジェットコースター

レールもボディーも乗客もひん曲がって

笑ってるようにも見えるし、死者のようにも見える

きっと地獄へ行くのさと隣の中年がささやく

バレンタインのチョコのハートを引っかいたら

血が出てきそうな世界では

美しいメロディーとノイズが仲良しで

落ちる気になればどこまでも落ちるし

昇る気になればどこまでも昇れる

たとえばリンゴが枝から外れて

地面へ向かってゆくところを

君や俺やみんながTVの生中継豪華実況人陣で眺めてたとしても

リンゴは地面に衝突しないで

笑ってるような死んでるような顔で観衆を煙に巻いてしまう

つまり結果が出ない、という世界

あるまじきアルマジロ空間に支配されてる

なんてことないこの俺だけど

バレンタインのチョコをくれるってつもりなら要注意

君の何気ないチョコで俺は昇天するかもしれないぜ

[020]2009.02.17

不公平

公園で子供が遊ぶ

人さらいがやってきたが素通りしていった

期待してた人へ、ごめんなさい

でも本当は謝る必要なんか無いんだけど

平和なブランコに俺たちは座る

ブランコの鎖はボロボロに錆びていたが

俺たちは楽しく靴飛ばしをして遊んだ

悪魔は傷ついた、おもに自尊心が

引っ込み思案だった自分を恥じる

もっとやらなければ

期待に応えなければ

ポジティブに 強く 強く 負けないようにと

そこでもっとも悪魔らしい判断をして

期待してた奴等をうならせてやる

公園で遊ぶ子供の中で

いちばん可愛い子を

いちばんステキな子を

いちばん愛されている子を

怪獣

事務員のユニフォームの色が派手な原色だったため  
それを着せられた者たちに評判が悪かった  
それを着せられた事務員と昼の定食屋で同席に  
なったまた別の会社の事務員は自分のトコの  
ユニフォームがかなりマシに思えて得をした  
得をして良い気分になってたのも束の間、怪獣が  
あらわれて定食屋を丸ごと踏み潰した  
踏み潰すだけでは飽き足らず、その場でダンスを  
踊りだした、定食屋はもう粉々、事務員は  
ペタンコ、ユニフォームは派手なのと地味なのが  
ほどほど混じりあって、それなりのデザインになった  
怪獣は捕らえられる前に姿を消し、定食屋を含む  
街の復興・愛する者を失った人の心の傷のケア  
等、市長はいろんな気配りを強いられながら  
頑張ってたけど、ある日すべてが面倒になって  
失踪した・・・と思われたが実は怪獣を探しに  
山奥へ入りこんでいた・市長の権限をなぜか  
使わずに使命感をおびて毒キノコ  
で腹を下しながら山小屋に陣を張る・あっぱれな  
気概を魅せたが、山小屋は予定調和のごとく  
怪獣に踏み潰された

綿菓子製造機の中を走り抜けてきたオマエの  
体は甘いから舐めてみたい  
白髪のアフロヘアーに紫のルージュ引いて 踊れ  
飛び散る破片が俺の目の残像になって  
チカチカ頭の中が痒いけど  
引っ掻く棒が無い  
スプーンでもいいけど、より便利なのは鉄のヤスリ  
ファイルを削除するには焼却炉か隅田川かその両方か  
いずれにしてもイメージしなきゃならない  
ピカピカの水銀色の壁だった頃のそのもっと前  
灰に埋もれた 100 円玉からなんとか読み取れる年号  
その頃～オマエは生まれたんだっけね  
この綿菓子製造機の回転が速過ぎるのか  
地球の回転が遅過ぎるのか  
フィーリングでしかないよ、そら、火事だ  
なんてことだ！ケムリが立ち止まってる  
触ってみると誘惑してるけど、ワナのような気がする  
ギザギザの刃が隠されているんだ

みずすまし

モチ肌輝かせて 彼女はすましてる  
毛穴がまるでない顔は鉱石のようだ  
21世紀仕様のオフィスビルの床に  
波紋を描きながら歩いていくのを  
誰もが遠くから目で追いかけるだけ  
午前 11 時 35 分、ぼくらが社会を意識する時間  
電波塔の生えた地面のあたりで  
遠足ごっこをしていたけれど 彼女の美しさには驚いた  
驚いたということに屈辱を感じてしまった人もいたが  
アメンボとミズスマシは違うんだ  
昆虫図鑑をここで広げることはいけないけど  
叩き潰したくなるのがアメンボだよな  
21世紀仕様の死んだ魚が浮かんだ都市（まち）  
足を絡めあうのはいいけど、ほどけなくなるなんて  
予想以上の困惑だよな、そろそろメシだ  
遠足ごっこのメインイベントのメシだ あと6分  
正午まで何をしようか、無限の待機、幽玄の退屈  
みずすましの波紋がここを通過してあっちの壁にぶつかり  
またここに戻ってくる頃、ぼくらの世界は変わってる  
まだメシは食べてないけど、あまりにも何もかも変わり果て  
水槽の中で溺死していたぼくらの夢がキラキラと・・・

破魔崎歩み

ビリビリビリーブ 信用金庫

約束と処女膜の違いがわからない

その心を信じろ その心が破けろ

目薬の味がするんだ 鋼鉄が巣食ってるんだ

俺の頭を支えてるのは首ではなく天井から下がるヒモ

ぶらりんぶらりんしている その周りを

飛び回るハエになりたい

複眼プラズマディスプレイに映るのは赤青黄

近過ぎで意味がわからない そんな時

TVをつけてみるとコメンテーターが解説してくれる

絶対信じない、意地でも信じない

破いてやるこんな紙 もっともっと細切れに

ケツが拭けないくらいまで細切れに

1円玉の雨が降っても幸せになれない欲望を

なぐって吹っ飛ばせ 玄関から外へ

明日、返り撃ちにあうとしても、今はとことん

痛みがあるってことを忘れようぜ

気のせい・気のせい・俺は豚肉

スーパーマーケットの寒い所でじっと待ってるなんて

もういやだ

[025]

WBC 私はブタのチンポ

日本 対 韓国

どっちの顔がカッコいいか

説明しなきゃダメなの？

ハッキリ言って面倒くさいね

ハッキリ言えることは面倒くさいってことだけ

ハッキリ 俺は 面倒くさい

そして説明の方は

絶対、ハッキリ言えないからね

つまりハッキリしないことを説明しろと言われるのが

ハッキリ面倒くさく感じるんだ

俺ってサワヤカだろ？

[026]

へバタひろかず

ケミカル・フレグランス入り仁丹が

カバンの中でこぼれて

この手帳はそんなニオイを放ちながら

格言を待っている

老婆は1日にして奈良漬をたいらげ

ゲップにまみれて死亡

診断書はテキトーすぎ

嘆かわしい文章力のDNA搭載PC

ビシビシ指導するも不合格

熟考のすえ、プレカリアートギャラリーにて個展

反響呼ばずヒマを持て余す受付係

サボっても問題なし

あらゆる仕事の90%

ハ工が2メートル先まで飛ぶ事にも値しない

そんな中、死刑判決（和歌山カレー事件）

いったい、どうなってるんだかね！



[027]09.05.12

笑っている気がする

しゃべり方も歩き方も忘れた

ひとつの肉体が横たわる

まぶたは誰かが閉じてくれた

どうせ見えない目だから

見えない目をこちら側からだけ見るのも

フェアなやり方じゃないし

死体の時間ってのは

完全に止まったわけじゃなくて

まだ、いまだ何かが起こってはいるんだけれども

もう乾電池みたいに 先は長くない

だんだん尽きてゆく 出来事は尽きてゆく

拾った小石がポケットの中で砂になるように

誰かの胸の中に宇宙空間が宿るように

おまえは歌詞の言葉と言葉の間の

何も無いところみたいなものになって

時々、ばくらが君のことをまだ生きてるって

錯覚させるような たくらみを持って

笑っている気がする

笑っている気がする

[028]

あぁ俺の中毒を道徳に変えてくれ  
ヤミつきになるほど好きなことが  
正しくないことだなんて おかしいじゃないか

好きなことを好きなだけ  
それ以上良いことなんてあるのか  
好きなことを好きなだけやって破滅したとしても  
それは破滅ではなくて、まっとう  
やり尽くしたんだ 最後まで行っただけ

神様がいたとして 命令することは  
好きなことをやれ  
俺は背けない 好きなことをやる義務を  
何が何でも、石にかじりついても  
好きなことを どんなに苦しくても ヤラネバ

あの形

びくびくするのはイヤですなあ  
たかだか給料をもらうために  
金が無いと生きていけないと  
思わせられてるだけかもしれないのに  
びくびくしながら  
仕事してるフリをする  
会社なんて ごっこしてるだけなのに  
仕事ごっこ 生産ごっこ サービスごっこ  
経理ごっこ  
舐めてかかってこーぜ  
ちよろいもんだ  
ハートは今ここにある オーイー  
からまった血管や からまった損得を  
ほどこうなんて思うなよ  
ハートはあの形のまま  
びくびくしようが、イイ気になろうが  
ハートはあの形のまま  
あのカタマリのまま

もげる恐怖を懐に忍ばせて  
中年女性用肩パッド入りロングコートを羽織った  
形而上学園 風紀委員長の 見回り時間、  
パシパシ竹刀を叩きつけながら廊下をやってくる  
中庭で遊んでいた低学年の子たちは  
それを発見して逃げる支度をはじめたが  
すでに遅く、委員長に見つかってしまった  
委員長は竹刀で威嚇しながら  
懐から原子炉を取り出しそうな勢いで  
駈けてくる 欠点だらけの鼻に玉の汗  
いろんな恐怖があって 恐怖に恐怖し続けるのも  
飽きつつあった観客席で犠牲者が出た  
生きてるだけでもうけもの  
その、もうけた命が転がって  
悪魔のごとき資本を生み出した  
ドーム球状に集まったみなさん  
このウイルスからは逃れられないので  
みんなで感染しましょう

[031]09.05.19

求めているものがわからずに  
少年の心は泣いている  
釣り針で痛めつけてしまった魚を思い  
胸がしくしく泣いている

やさしくしてくれる人はいるのに  
いっこうに孤独のまま  
手を差しのべれば触れ合えるのに  
何もできず眠るだけ

さあバンソーコーをはがせ  
傷を見せろ、傷よ風に吹かれろ  
甘ったれたことを後悔する日がくる

おまえが去る時  
どんな記念も持って行くことはできない  
おまえの少年の心と胸は泣いている  
傷跡も涙の河も無いけど  
水や炭素や石ころはあった

電波風呂

毒の手触り、そんなものがあるとして  
蘭の栽培に手を染めた俺を ヤツが非難する  
除菌洗剤で爪の中までゴシゴシしてる洗面台の  
その横で小便を床にぶちまいてやろうか  
一滴一滴が批評空間的言語のどーたら  
苛々谷から水道橋まで5分で行けるっちゅうのに  
神田川の鯉はちっとも動かないんで  
石をぶつきたくなる。だけど拾う石が無い  
俺に見えない電波を誰かが見えてるってのは  
面白くない。だから風呂でも入ろう  
そんなことをしても世界の汚れの総量は変わらないが  
気分支配される生まれつきの俺やその他大勢  
心を開く前に毛穴を開くことから始めるしかない  
髪の毛の何本かが不意に立ち上がり  
裸電球のアイコンが吹き出しに描かれる時  
電波風呂でまどろむ俺に恍惚が訪れる  
あの亀の背に乗ってどこまでも行けるような  
玉手箱の煙を存分に浴びたような  
頭上を見上げればギザの大ピラミッド  
電気街の通り魔が辿ったこの道の  
ジュースの販売機 今も輝いているのか

なぜ雨が降るのだろう  
空から水滴が落ちるなんて  
落ちた水滴がまた蒸発するなんて  
勝手にやっとなんて感じ  
でも感謝はしている  
僕が色々考え出す、その前からずっと  
雨は降ってたみたいだし  
雨が降っていたからこそ  
僕が色々考えることができたから  
雨が激しく降りすぎる時は  
僕は考えるのがむずかしくなる  
わけがわからないまま  
玄関を飛び出し  
着てるものを脱いで  
地面に寝転び  
雄叫びをあげ  
クルクルのたうちまわって  
雨が優しい降りになるまで  
そんなふうに

思い出したくなかったけど  
ゴトゴト走る荷馬車に載ってるのは  
荷台の上の束の間のひまつぶしに  
キヨシローの歌など口ずさんでたけど  
やがて市場へ着いちまった  
思い出したくないこともあるけど  
いい思い出だってあるんだ  
胸にしまってあるけど 首に掛けられたのは値札  
思い出で胸がいっぱいなのに 浴びせられるのは罵声  
目の前のことは  
目の前のことは 思い出にしたいくない  
僕は売られている  
この世界とひとつになるために何の関係もない出来事  
心の片側は閉じて  
もう片側をどンドン突き進めよう  
あるいはこのまま眠ってしまいたい  
寝転びながら爪弾く弦の響きに耳を傾けたい  
バカげた運命を歌にして  
バカげた運命は歌に封じ込めて  
僕とっしょに売ってしまえばいい



[035]09.06.25

透明な壁の向こうに巨大な目  
まばたきは 強力なモーターで動かしてるみたい  
鋼のようなまつ毛 先がとんがってる  
なんて恐ろしい だけど どうってことない  
それは見てるだけだから  
と言えども 気にならなくなるなんて できない  
ゴゴゴと動く目玉 ギギギとひきつる視線  
あんな気味の悪いやつは電源を切ってしまいたい  
あの目玉の電力供給源をぶっ壊したい  
なんて憎らしい だけど どうにもならない  
それは壁の向こうだから  
こんなふうに緊張し続けたら身がもたない  
結局、自然に振舞うのがラクなんだ  
ありのままの自分でいいじゃないか  
俺は赤虫が大好物だけど それを恥じる  
必要なんてないのだ  
ウンコも尻からぶら下がってて きまり悪いけど  
フン切りつかないまま行くぜ

[036]09.06.26

木乃伊銅羅威武

県道コンビ二級河川

交差点の名前標識ペットボトル吸殻いっぱい灰皿

ラジオも聴けるCDも聴ける何も聴かなくてもよい

コクピットに納まってミイラが走るよ

(ピラミッドの中を三角形に巡ってる

この方形を描けばGPSに見つからないらしい)

ミイラが意思を持ってるのか

それとも誰かがミイラの思考をプログラミングしたのか

(包帯にプログラム・コードがぎっちり書き込まれてるなら

包帯をはがしてしまえば何も出来ないだろう)

世界じゅうのミイラが一斉に

ハンドルをグルリと半回転させたら

どんなことになるのか

わからないけど

そんなプログラムを書きたがるやつもいる

だけど今日も県道コンビ二級河川

タバコを吹かしながら

俺のようなミイラが運転を続ける

[037]

俺は悲しい  
人に嫌われ  
そして犬にも嫌われた  
俺はユーウツユーウツユーウツユーウツユーウツ  
憐れみを

イヤなやつの味方ばかり  
だから犬は嫌いだよ  
強いやつの味方ばかり  
だから犬は嫌いだよ

街を歩けば犬にあたるよ  
どこもかしこも犬だらけ  
俺はバットを激しくスイング  
次から次となぎ倒す

ギャンと鳴いたり  
キャンと跳んだり  
俺はダンスでなごみたい  
俺も負けだが  
お前も負けだ  
全部負け犬にしてやる

さあ遊ぼう  
ケンケンパ  
びっこのワンコ  
ケンケンケン

[038]2011.11.8

そもそも望みなんてない  
なんとかこの世にしがみついているが・・・  
うるさいやつらを避けて  
柔らかい地面さえありゃ そこで寝転ぶだけ  
気の向いたことをやる  
もし気が向かないならそれはやらなくてもいい事だ  
と言いつつ多少はガマンもしてるのだろう  
なんとかこの世にしがみついたために  
呪いが吹き荒れる上空くもり空を  
ながめた「ああなんて不思議な雲たちよ」  
あの雲を引き裂くヒコーキを作った人もいるのに  
オレは蒲団に寝転び ただ空を見上げ  
顔にポツリと水滴が・・・夕立の・・・  
セミの声、車の音、ざわめく木立ちの音  
死んだ後って意外とこんなものなのかも  
ただ問題は どうやって会えるかだな  
先輩たちに・・・あの広い湖畔のどこか  
しばらく歩くことになるかもしれない  
砂浜の木片を蹴りながら、多分、魚のいない  
湖にガッカリしながら とぼとぼと歩くのだろう  
望みを大量に持ちながら



